

1999年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

史学999

国信義精

学大新志三第

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅴ (沈黙の言葉) (旧英米文学特講Ⅴ)		前 期	2 単位	小 野 良 子
【講義概要・学習目標】 芝居を見る時、観客は舞台上で登場人物同士、或いは登場人物が一人で語る台詞を聞いて、芝居の筋の展開、人物の心理、人間関係を理解していく。シェイクスピアやその後に続く17～20世紀中頃までのイギリス演劇は台詞を「聴く」芝居であり(そもそも「観客」とは英語では「聴衆」(“audience”)なのだから)、舞台上で登場人物は実に饒舌に語って筋の進行を明らかにし、観客を劇世界の中に引き込んだ。ところが20世紀中頃に登場した劇作家でベケットやピンターに代表される「不条理劇」作家は登場人物の台詞が果たす言語コミュニケーションの機能を変質させた。 本講義では、ベケットとピンターの作品を取り上げて、現代イギリス演劇が問いかける「コミュニケーションの不在」と「人間関係の崩壊」について考察する。	【講義計画】 1. <i>Waiting for Godot</i> の映画鑑賞およびテキストの検討 2. <i>Betrayal</i> の映画鑑賞およびテキストの検討 3. 現代演劇の言語・コミュニケーション・人間関係			
【成績評価の方法】 レポート —— 1点提出 (400 字×20～25枚) 小エッセイ —— 毎講義終了時に提出	【参考文献】 講義時に紹介の予定			
【教科書】 Samuel Beckett, <i>Waiting for Godot</i> Harold Pinter, <i>Betrayal</i>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅵ (米小説の女性) (旧英米文学特講Ⅳ)		後 期	2 単位	石 塚 浩 司
【講義概要・学習目標】 社会的・経済的に、あるいは政治的にも、いまだに男性優位の思想は文化のなかに根強く生きている。社会的と家事・育児との仕事上の性による分業理論もそのひとつの表れである。それはひとつの差別思想であり、性差別と呼ばれる。差別意識は文化装置のなかで繰り返し再生産されている。大事なものは、そのような文化装置に気づくことだ。授業では、以上のような視点から、男性作家による3つのアメリカの短編小説をとりあげ、そこに女性がどのように描かれているかを検証する。テキストは英語で読む。授業で読むテキストのほかに受講者全員が各自11月中にケイト・ショパン『めざめ』を読みあげることを課する。	【講義計画】 アメリカ短編小説のうちから“A Girl in a Summer Dress,” “Strawberry Season,” “Chrysanthemums”の3作品をとりあげ、それぞれの作品で女性がどう描かれているかに着目しつつ、順次購読する。そのあとでKate Chopin. <i>The Awakening</i> 『めざめ』をとりあげ、比較検討する。			
【成績評価の方法】 出席状況、テスト (またはレポート) 結果を総合して評価する。	【参考文献】 授業中に紹介・指示する。			
【教科書】 短編小説についてはプリントを配布する。 『めざめ』は各自購入すること				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語史 (旧英語学特講Ⅰ－英語史)		通 期	4 単位	野 原 康 弘
[講義概要・学習目標] イギリスを旅してまわると、いろいろな民族が残したのを見ることができる。ソールズベリー平原には、ケルト民族の遺産である(?)と言われている「ストーンヘンジ」が謎のまま残されている。北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約二千年前のローマ人の支配の強さを見せつけている。東部の「サクソン海岸」派、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院の遺跡」は、バイキングの侵略の激しさを物語っている。さらに辞書上でのおびたしい数の「フランス語からの借用」は、1066年以後、約320年間のノルマン人の征服と支配を誇示している。 この講義では、このような外的な歴史と関連して、英語という言語がその内的な歴史をどのように展開してきたかを学ぶことになる。		[講義計画] 前期 1. 英語の祖先語 2. ケルト人の遺産 3. ローマ人による征服 4. ゲルマン人による征服 英語の始まり 5. 古期英語 6. バイキングによる侵略 7. ノルマン人による征服 8. 中期英語前期		後期 1. 中期英語後期 チャーターの英語 2. 近代英語の始まり 英国のルネッサンス シェイクスピアの英語 3. 近代英語後期 4. 世界の英語 5. アメリカ英語
[成績評価の方法] 前期と後期の試験、レポート、出席		[参考文献] 授業中にそれぞれ指示する。		
[教科書] 『英語史』 松浪 有(編) 大修館書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語文法論 (旧英語学特講Ⅱ－文法論)		通 期	4 単位	三 宅 亨
[講義概要・学習目標] 我々が英語を話したり、書いたりするとき、ただ単語や慣用句を理解しているだけでは正しい文は作れない。ただ単語や片言を並べてみても、知的な伝達は期待できない。きちんとした文法知識が求められる。 従来のほとんどの文法書は、文の構造(型)を分類し、そこから意味を求めるといった形式を採用している。この講義では、逆に、まず話し手(書き手)の伝えたい意味や意図(概念)から出発し、それをどの構造(型)を用いて表現するかという角度から文法規則を見直す。いわば、「発信」のための文法である。 受講者は「英語の構造」を履修済みであることを前提に講義を行なう。		[講義計画] テキストは英文であり、講義では毎回10ページ以上の範囲をカバーするので、予め予習して出席すること。 1. Variety of English 2. Concepts 3. Information, reality & belief 4. Mood, emotion & attitude 5. Meanings in connected discourse. 詳しくは、第1回目の講義で伝えるので、必ず出席すること。		
[成績評価の方法] 遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テスト・レポートなどに基づき、総合的に評価する。		[参考文献] Quirk et al., <i>A Comprehensive Grammar of the English Language</i> . Longman, 1985 その他、テーマごとに指示する。		
[教科書] Leech, G. & J. Svartvik: <i>A Communicative Grammar of English</i> . (2nd Edition) Longman, 1994				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語音声学 (旧英語学特講Ⅲ－音声学)		通 期	4 単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
【講義概要・学習目標】 本授業はつぎの二つの目的をもっている： (1) 音声学と音韻論という、言語学の低位分野の基礎的な概念や原理を学生諸君に学んでもらうこと (2) その概念や原理を英語の音韻体系に適用してもらおうこと (1) については、例えばつぎの問題を取り上げる： ・人間言語における音（オン）は、どのようにして調音するのか ・ある個別言語では、二つの音が「同じ」か「違う」か、どう決めるのか ・人間言語の可能な音をどう分類すべきか ・発話する際、どのような規則に従っているのか (2) については、つぎのような、より具体的問題を勉強する： ・英語の音：その記述、その調音のしかた ・英語の音韻体系の主な規則 ・英語におけるストレス（強勢）とイントネーション	【講義計画】			
【成績評価の方法】 定期試験も複数の小テストも行なう。出席する義務は当然ないが、テキストがないからこそ、出席して念入りにノートをとらなければ、単位がとれる可能性は非常に低くなる。そして授業中私語をしたり眠ったりする学生は、早速除籍される。	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語習得論 (旧英語学特講Ⅳ－英語教授法)		通 期	4 単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
【講義概要・学習目標】 言語学という科学は、特につぎの三つの質問に答えようとする： 1) 言語の知識は、どのようなものなのか。 2) その知識は、どのように獲得されるのか。 3) その知識は、どのように使用されるのか。 本授業は、その(2)に関するものである。われわれは、自分の母語に関して非常に複雑かつ微妙な知識をもっているが、その知識を、どうやって得たかを、説明しなければならない問題である。本授業では、子どもの母語（特に英語や日本語）の獲得過程のデータを考察しながら、提案されている諸説を考える。 つぎの点に注意してほしい： イ) 獲得を説明するために、何が獲得されるか（上の(1)）を十分把握しておかなければならない。従って、学生諸君が文法論や英語の文法をすでに（ある程度）理解しているという前提に基づいて授業を行なう。 ロ) 本授業はあくまでも母語の獲得に関するものであり、外国語の学習に関するものではない。なおさら教育法とは、縁が全くない。	【講義計画】			
【成績評価の方法】 定期試験も小テストも行なう。なお、テキストを読むだけで済むと思っは大間違いで、出席して念入りにノートをとらなければならない。そして授業中私語をしたり眠ったりするような、マナーを知らない学生は、早速除籍される。	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語パブリック・スピーキング		通 期	4 単位	萬 戸 克 憲
【講義概要・学習目標】 問題点に対し①論理的な思考をし、②説得したり、③その場で反駁したりが、英語のできる技能を身につける。 準備、発表など毎時間積極的な取り組みが必要。かなりきつい授業であるので、覚悟して受講してほしい。 この講義を通じて、英語で自由に自分の意見を述べたり、相手に反論できるようになることを期待している。 なお、下記テキストを購入し、次の課題についてessay (B5版で3~5枚)を書いて提出することで、受講を認める。 ①debate は discussion とはどのように違うか ②debate を通じてどのような力を身につけることができるか ③この授業にたいする私の期待	【講義計画】 1 前・後期を通じて、毎時2分間の英語でのスピーチを課す 2 前期：debateについて基本から学習し、さまざまな問題について自分なりの意見が英語で表現できるようにする 3 後期：debate (真剣勝負)を中心に授業を進める			
【成績評価の方法】 授業への参加度 及び essay 3回以上の欠席は単位を認めない	【参考文献】			
【教科書】 Y.Matsumura, etc. <i>Enjoy Debating</i> EICHOSHA				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語ディスカッション		通 期	4 単位	ラウール セルバンテス Raou l Cervantes
【講義概要・学習目標】 The goal of this class is to intelligently discuss and understand social relationships and social influences in our daily lives. Students will complete writing and reading assignments, in addition to discussing topics in English only. In our class discussions we will use popular movies and our life experiences to understand our social world. This class is for serious students who want to work hard, come to class regularly, understand their world, and use English for serious discussion. Those students who will not speak English in class will be given weekly writings and class presentations.	【講義計画】 Plan: The topics will include: Family problems: Ordinary People Media influences: Truman story Money and consumer culture: Jerry McGuire Identity: Who do we think we are?: Forrest Gump Friends and talking about friends: The Big Chill Men, women, and power: Fried Green Tomatoes			
【成績評価の方法】 Students will be graded on weekly attendance, class participation, and homework assignments.	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語翻訳法 (旧応用英語特講Ⅱ－英語翻訳法)		通 期	4 単位	柳 父 章
【講義概要・学習目標】 オールは 英訳読解力をつけたこと。 審判記をいじ めると、 大阪 読んでいるがゆえに、 積極的に深く 読めるようになった。 オニは、 日本語の文章力をつけたこと。 久にオニは、 審判記を通じて、 ニュースの 考え、 西洋文化、 日本文化について考えたこと。	【講義計画】 始め何回かは 翻訳について 概論毎回の講義。 その後、 教科書および 私がコピーして 配布予定の 英訳を、 毎回翻訳してものを 提出してもらう。 人数が少なければ、 私が朱を入れて返却す るが、 人数が多ければ、 毎回返却は できなくなる。			
【成績評価の方法】 毎回提出された 翻訳の 評価の 総合で 決める。	【参考文献】 柳父章著『翻訳語を讀む』 丸山学芸図書、1998年、2000円			
【教科書】 W. U. Solberg "A History of American Thought and Culture," 1983 1996 年 金星堂 ¥1,339				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語通訳法 (旧応用英語特講Ⅰ－英語表現法)		通 期	4 単位	遠 山 淳
【講義概要・学習目標】 目標言語レベルを日本で刊行されている大新聞(朝日・毎日・読売)の日本語で掲載さ れた「社説」レベルに設定したい。あまり専門に偏らず、かつ一定の知的レベルを保って いるという意味で、学生諸君の目標となり得ると考える所以である。 ad hocだけでなく、逐次通訳を中心に、簡単な同時通訳の訓練も取り入れる予定 である。 しかし目標はあくまでも逐次通訳法の習得にある。そのために、最も重要なのが語彙力 の向上、文体の修得、そしてnote-takingの完成である。 受講者の英語力については、TOEFL 500点以上の実力が必要であろう。	【講義計画】 最初の授業で発表する。			
【成績評価の方法】 通常の授業への参加および performance で評価する。	【参考文献】 最初の授業で発表する。			
【教科書】 特に使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教と英米文学 (旧英米文学特講Ⅴーキリスト教と英米文学)		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
【講義概要・学習目標】 神と悪魔、信仰と不信、希望と絶望、この対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証することにある。講義を通してキリスト教への理解を深めると共に、優れた文学作品が与えてくれる喜び、恐怖、そして感動を体験して欲しい。常に聖書に言及しつつ講義を進める。講義はできるだけ原作品に密着して行うので指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。全講義の詳細なアウトライン(学習ガイド付き)を2回目までに用意しておくのでそれに従って予習するように。	【講義計画】 前期 1-2 Wordsworth "We are Seven" 永遠の命と無垢 Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス 3-4 Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望 5-6 Hawthorne "The Minister's Black Veil" 人間は罪の存在 7 Herbert "Love" 罪を赦すキリスト 8 Milton "On His Blindness" 絶望から希望の信仰へ 9-13 Faulkner "That Evening Sun" イエスの再臨と黙示文学 14 まとめ 後期 1-4 Melville <i>Moby-Dick</i> 不信の男とキリストになりそこなった男 5-9 O'Connor "Good Country People" 障害者・健常者と悪魔 10 Christmas carols, English and American 信仰の喜び 11 "Good Country People" つづき 12 まとめ 13 予備			
【成績評価の方法】 前期 小論文 後期 期末試験 年間を通じて平素の努力点	【参考文献】			
【教科書】 聖書 谷本泰三(著)「学習ガイド・講義アウトライン」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
【講義概要・学習目標】 文学とは何かという問題に解答を出すために、文学作品をいかに読むべきかを、具体的に講義する。作者が自ら信ずる真理を読者に伝えるために最も効果的な表現手段を選択したとすれば、読者はその表現を読む技術を必要とする。作者が選択した最良の表現を、詳細に、正確に、そして想像力豊かに読む方法を受講生に伝える。 次に、文学作品を読む技術を身に付けた読者に要求されるものは、読者自身である。読者としての我々はどのような人間なのかを見たい。これが最終目標である。	【講義計画】 第1回目の授業で指示する。			
【成績評価の方法】 年2回のレポートによる。	【参考文献】 第1回目の授業で指示する。			
【教科書】 第1回目の授業で指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米の童話と童謡 (旧英語英米文学特講－英米の童話と童謡)		通 期	4 単位	藤 森 かよ子
【講義概要・学習目標】 講義目的：英米文学の源泉は、三つあると言われる。「聖書」と「シェークスピア」と「マザー・グース」である。それと、民間伝承や説話が時代により再話されリサイクルされていった童話も源泉である。推理小説にも映画にも新聞の記事にもポップ・ソングにもコマーシャル・ソングまで、童話や童謡のもじりやパロディが使われている。本当によく使われている。それを知らずにいるのは悔しい。土台も知らずに、英米文学やってみてほしい。	【講義計画】 前期第1回：なぜ童謡か――童謡なんて18世紀までなかった！ マザー・グースについて 2回から10回：Nursery Rhymes Part1---Part8 11回：まとめ・復習 前期最終回：試験 後期第1回：前期末試験返却 マザー・グースについて再び 2回から6回：Nursery Rhymes Part9---Part13 7回から10回：童話って何だ？童話4編（「幸福の王子」含む） 11回：まとめ・復習 後期最終回：試験			
【成績評価の方法】 出席／受講態度：50%（欠席9回で失格） 試験：50% 毎回提出する講義内容に関するコメント・質問記述用紙が出席カード。	【参考文献】 渡辺茂編・著『マザー・グース事典』（北星堂・1986） 平野敬一著『マザー・グースの唄：イギリスの伝承童謡』（中公新書・1972） 矢野文男著『知っておきたいマザー・グース』（三友社出版・1981） 北原白秋訳『まざあ・ぐうす』（角川文庫・1976） 谷川俊太郎訳『マザー・グース』全4巻（講談社文庫・1981） 河野一郎編訳『対訳・英米童謡集』（岩波文庫・1998） Iona and Peter Opie ed., The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes(Oxford UP,1997)			
【教科書】 安藤幸江注：『Nursery Rhymes ビデオで楽しむマザー・グース』（北星堂） 童話教材プリントは、講義中に配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マスコミの英語		通 期	4 単位	大 橋 襄
【講義概要・学習目標】 マスコミの英語は、世の中の激しい動きを即座に伝えていくものだけに、生き生きと躍動しています。独特な言い回しや表現を用い、時には文法や構文のルールも逸脱します。この授業では、最新の英字新聞、雑誌、放送などを教材として、ホットなニュースを読んだり、聞いたりしながら、興味を持ちつつ学習を進めていきたいと思えます。もちろん基本的なことも、教科書によって学んでいきます。しかし、忘れてならないのは、英語の知識と同時に、ニュースで扱われるいろいろな問題の本質や背景などについての知識、そして豊富なボキャブラリー（英語とともに日本語も）です。それらを身につけて「マスコミの英語」にどンドン接していけば、次第に英字新聞・雑誌・放送などへの拒絶感がなくなり、親しみを感じるようになるでしょう。それがこの授業の目的です。	【講義計画】 （前期） 日本や海外の英字新聞、雑誌、放送、通信などの概説からはじめ、その内容（ニュース、論説、解説など）、記事の構成などを学び、またそれらに用いられている特有の語法、文体、表現などを学習します。そのあと、教科書と並行しつつ、最新の新聞、雑誌、放送など、“生の”教材に触れながら授業を進めていきます。また、問題の理解を助け、深めるため、時事知識も同時に学びます。 （後期） 前期と同様、随時、最新の新聞などを教材にしつつ、授業を続けます。			
【成績評価の方法】 学年末の試験を最終評価とします。 また、授業時などにおける随時のテスト、レポートのほか、出席状況や学習態度も評価に加えます。	【参考文献】			
【教科書】 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（日本文化） （旧 日本文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	佐賀 朝
[講義概要・学習目標] 「日本近代都市の社会・文化史的研究」と題し、文化現象の基礎にある生活諸関係や社会構造の問題について、近代日本の都市社会を歴史的に分析する作業を通じて考察する。 具体的には、明治～昭和戦前期の大阪の都市社会を、住民諸階層の生活と文化、様々な都市内地域における社会構造の個性的あり方とその相互関係、といった切り口から分析していく。 基本的には歴史学の立場から社会構造を捉える方法を学ぶことをめざすが、そうした視点から新たな文化研究の方向についても模索していきたい。	[講義計画] 都市社会の具体的な素材を分析しながら、論点を積み重ねていく、というスタイルを進める。 当面、以下のような素材を予定している。 外国人居留地をめぐる社会構造と文化 近代遊廓の社会関係史的分析 都市下層社会の生活と文化 資本主義化と地域社会形成 在日朝鮮人社会の生活と文化 近代の地域支配と住民諸階層 戦争と都市社会・都市文化			
[成績評価の方法] 出席・受講態度、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。	[参考文献] 授業のなかで随時、提示する。			
[教科書] 特定のものはない。必要な資料は授業のなかで随時、配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（中国文化） （旧中国文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley
[講義概要・学習目標] 中国——遠いと思えば上海までわずか？時間、近いと思えばどげなしでは行けない、行けば理解できないことばかりで、心を揺さぶられる。第一印象で反感を覚えても、時間が立つうち愛着が深まる。「共産主義国家」と思えば、「資本主義国家」日本に負けず劣らずみんな金儲けに必死。60年代に国家主席を引き継ぐことまで政治の舞台上活躍していた若者はいま、昼間は株の売買をし、夜はディスコで踊りまくる。「革命運動輸出」で恐れられていた中国共産党はいま、「愛国的カラオケソング」を強制する。謎の上にはまたなぞが重なる。だからこそ中国は放っておけない国なのだ。 講義では、堅苦しい教壇からのお説教スタイルをなるべく避けるつもり。その代わりに映画、音楽、漫画、テレビ番組などをフルに活用し、古来からの文化にも触れながらいまの中国の複雑な現実を理解してもらえよう努める。使用する言語は日本語。 尚、「講義」とはいえ、受講生の積極的な参加（講義中の質問タイム、定期的なレポートや小テスト、そして出席）が要求されるからそのつもりで受講して下さい。 目標は主に二つ。一つは 3 年次以後の専門演習に進むための基礎知識と理解力を与えること。もう一つはそのような理解を身につけて、「中国へ行ってみよう」という気持ちになってもらうこと。	[講義計画]			
[成績評価の方法] レポート、小テスト、及び出席率	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（東南アジア文化） （旧東南アジア文化研究Ⅰ）		前期集中	4 単位	深 見 純 生
【講義概要・学習目標】 この講義の目標は東南アジア地域研究のための基礎的な素養を身につけてもらうことである。同時に、東南アジアに限らず「地域」というものを捉える視点と「地域研究」というものについても話したい。 「地域研究」には「現地体験」つまり現地社会に入って人々の暮らしと文化を観察することが必要である。教室では不可能だが、せめてビデオでこれを行ってみよう。ただしビデオは誰かが「編集したもの」であることに注意しなければならない。地域研究にはまた「地域特性」つまりその地域の特徴とその背景の把握が大事だが、東南アジアではこれがけっこう難しい。多様性、生態適応型、地域統合志向の出現といったことから出発しよう。 なお広く東南アジア全域を対象とするが、細かい点では私の専門との関係で、地域的にはインドネシア、学問的には歴史学に傾きがちである。		【講義計画】 1. 世界のなかの東南アジア アジアとヨーロッパ／世界のなかの東南アジア 2. 東南アジアの多様性の現状と背景 地理／10国の現況／言語・民族／宗教／歴史 3. 東南アジアという地域の成立論理 国際政治の論理／文化的視点 4. 東南アジアを括る論理を求めて 生態学（島の熱帯）／社会学（小人口社会）／ 文化学（基層文化と外来文化）／政治学（権力の強さと弱さ）		
【成績評価の方法】 時々的小レポートと期末試験の成績を総合する。		【参考文献】 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997 [桃園R292.3] 綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいインドネシア』弘文堂 1995 [桃園ST292.4] 上智大学アジア文化研究所編『入門東南アジア研究』めこん 1992 [桃園A223] 土屋健治・加藤剛・深見純生編『インドネシアの事典』同朋舎 1991 [桃園R292.4] 小池誠『インドネシア 島々に織り込まれた歴史と文化』三修社 1998		
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（西南アジア文化） （旧西南アジア文化研究）		通 期	4 単位	井 本 英 一
【講義概要・学習目標】 古代西南アジアのセム族の宗教からユダヤ教、キリスト教、イスラム教の三大宗教が出現した。三つの宗教は同根同家であるがそれぞれ独自性を持つ。教科書としては、キリスト教とイスラム教がどちらがどうか、50の質問を設定して、それに答える形で解説する。内容的であると同時に学術的裏付けも持っているのが有益である。国際交流がますます盛んになる時代、知識として先ず学んでおきたい。		【講義計画】 同系である二つの宗教、『聖書』と『コーラン』のちがいを、天国と楽園は同じか、愛と律、十字架と三日月の意味、何人の祈りと集団の礼拝、一夫一妻と四人の妻、死のタブーなどについて論ずる。		
【成績評価の方法】 期末試験の得点によって評価する。		【参考文献】		
【教科書】 いろ ちち 『キリスト教とイスラム教』新潮選書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（アメリカ文化） （旧アメリカ文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	大 井 映 史
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>アメリカとは、血縁（家族）・地縁（故郷）を断つても自由を得たいと欲したヨーロッパ人にとっての、最後の希望だった。彼らは、アメリカに夢を見た。それが理想郷の建設であれ、一攫千金の夢であれ、あるいは単なる逃避行であれ、新大陸の未開の荒野に、何者にも束縛されない自由な人生を求めたのである。そういう意味で、アメリカはユートピア思想の延長線上に浮かんだ、千載一遇のチャンスだったし、その建国は人類史上最大の、実験だと言える。ただし、個人個人の思惑は微妙に食い違う。今のアメリカの姿は「夢見られたアメリカ」から程遠い。アメリカという自由への夢とその光は、むしろ人の心に灯って色褪せることなく、今も、世界に広がりつつあるものだと言えるのだ。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期：歴史的検証</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アメリカン・コーヒーと建国の理想：自由、平等、幸福の追求 2 ヨーロッパ人の描いた世界：ユートピア思想概観 3 映画：「マルチン・ルター」と「コロンバス」 4 アメリカン・ルネサンスの作家たち 5 南北戦争：映画「ハックルベリー・フィンの冒険」 6 「明日に向かって撃て」と言われても、「俺たちに明日はない」 <p>後期：二十世紀のアメリカ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 移民と差別：映画「ピフォア・ザ・レイン」 2 二つの世界大戦と女性解放運動 3 赤狩りと大統領暗殺：「J F K」 4 ヴェトナム戦争と公民権運動 5 アメリカン・フォーク・ソング 6 国境喪失：ユートピア小説が描く近未来 7 新たなアメリカ：映画「スモーク」 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末締切りの小論文：70% 映画などについての授業中のクイズ：30% 討論への参加：ボーナス・ポイント</p>		<p>[参考文献]</p> <p>多木浩二、『ヨーロッパ人の描いた世界』、岩波書店 濱田政二郎、『ユートピアとアメリカ文学』、研究社 ランダル・スチュアート、『アメリカ文学とキリスト教』、北星堂書店 ニコラス・レマン、『約束の土地：現代アメリカの希望と挫折』、桐原書店 *その他、授業に沿って紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>配布するプリントのほか、各自、研究課題に即した文献その他、資料を収集し、その中から一冊を選んで自分の教科書とすること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（イタリア文化） （旧イタリア文化研究）		通 期	4 単位	武 田 好
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ヨーロッパ文化について言うとき、古代ローマ時代から17世紀中葉まで常にその中心にあった「イタリア」を知らずしては何も語れないだろう。近年日本でイタリアブームなるものが深く進行しているのも、ようやく人々はその事実気づき始めたからではないだろうか。ただ、日本人が持つ「イタリア像」はあくまでもその時代の日本が作り上げた像にすぎず、イタリアの本質からはほど遠い。逆に、日本人がイタリアに対して持つイメージを分析すれば日本社会の軸の「ブレ」が見えてこよう。授業では、その「イタリア」を探るべく多方面からのアプローチを試みる予定である。共に考え、意見交換を行う場にしたいと考えている。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>【前期】日本人が作り上げたイタリア像を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イタリア観 ・イタリア語の歴史 ・街の構造：都市国家 ・食生活と家庭 ・美術の歴史 <p>【後期】イタリア文化の本質を探る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イタリアの歴史 ・宗教と日常生活 ・文学と知識人 ・社会と音楽：オペラ ・絵画にみる歴史 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に行う課題と学期末試験から総合的に評価する。出席状況が重要であるの言うまでもない。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（ドイツ文化） （旧ドイツ文化研究）		通 期	4 単位	高 田 里 恵 子
【講義概要・学習目標】 この授業の名称は「ドイツ文化」研究です。しかし、果たして「ドイツ」あるいは「ドイツ文化」などという実体があるのでしょうか。1871年にドイツ帝国が成立するまで、ドイツという国はありませんでした。統一国家がなかったからこそ、文化や言語が「民族」を統合するものと見なされたのです。遅れてきた国民国家である「ドイツ」は、ドイツとは何か、ドイツ的なものとは何か、と問いつづけながら、ついにナチズムにまで突っ走っていきました。 すでに皆さんは、何となくドイツについての「イメージ」をもっていると思いますが、この授業は、とことんそれを破壊していくことを目標にするつもりです。もちろん、そうした破壊のためには、それ相当の知識を獲得し、自ら考える力を身につけなければなりません。	【講義計画】 第一部 ドイツ、この曖昧なるもの 1. 啓蒙の帰結としてのナチズム 2. ドイツ人とユダヤ人 3. ナチズムのイメージ 第二部 ドイツ青年運動 1. 教養と教養批判 2. 日本的教養主義の起源としてのドイツ			
【成績評価の方法】 夏休み終了後のレポート提出。後期は試験をします。 レポート、試験ともに、授業への出席に基づく理解度を高めるために行われるもので、そのような目的に合った課題・問題を出します。たんに文献を丸写しにしたレポートは不合格の対象となるでしょう。	【参考文献】 授業中に指示します。			
【教科書】 教科書は使いません。ハンドアウトも、あえて配布しません。授業の内容を、自分で分かるようにノートにまとめるという訓練をしてください。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（ロシア文化） （旧ロシア文化研究）		通 期	4 単位	国 松 夏 紀
【講義概要・学習目標】 ユーラシア大陸の北方に偏ってヨーロッパからアジアに広がるロシアは、感覚的には中国とEU諸国の間に孤立してイメージされている。我々は、古来中国との縁が深いし、近頃は欧米との交渉密である。ロシアは、その間に落ち込むようにして、また「崩壊後」の「混乱」もあって、判り難さを増大させている。 本講は、このようなイメージ（偏見）を検証しつつ、本来あるがままの或いはあるべきロシアとその文化を把握することを目標とする。ロシアとその文化は、ヨーロッパ及びアジアとの絶えざる接触・交流の中で自らを形成した。その過程を、歴史・文学・宗教・美術・音楽・演劇等の諸相にわたって順次考察する。 逆説的ではあるが、ロシア文化の独自性は異文化の受容に発するのであり、また、独自性の獲得によって初めて、国際的普遍性への道が開かれる。各種視聴覚教材も活用し、出来るだけ具体的にロシアにアプローチする。	【講義計画】 <前期> I. ロシアのイメージ：アジアとヨーロッパの狭間で II. ロシアの歴史：規範と逸脱をめぐって III. 日露交渉史概説：「領土問題」の淵源 IV. ロシアの文学：独自性と世界的普遍性 <後期> V. ロシアの宗教：ロシア正教 vs. ローマ・カトリック VI. ロシアの美術・音楽：民族芸術とのかかわり VII. ロシアの映画：映画先進国としてのロシア VIII. ロシアの舞台芸術：ロシアのヨーロッパ制覇 * 前期・後期ともに、各項につき2～3講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得る。			
【成績評価の方法】 学年末レポートにより評価します。1回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。	【参考文献】 授業中に、随時指示します。			
【教科書】 特に定めません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化概論	01	通 期	4 単位	小 林 信 彦
	02	通 期	4 単位	
【講義概要・学習目標】 <p>人間の暮らしに便利さをもたらすアイデアは、容易に異文化圏から取り入れられる。しかしながら、人間の生き方を根本のところまで規制する原則は、簡単に置き換えが効くものではない。古代の日本に仏教が伝わったと言われるが、はたして日本人は従来の世界観に替えて異文化圏の世界観を採用したのであろうか。そういうことが起こるには、インド文化と日本文化とのギャップが大き過ぎた。</p> <p>この授業では、仏教に対処した古代日本人の発言に着目し、これを仏教文献の記述と比較することによって、日本文化とインド文化の決定的な違いを浮かび上がらせたい。そして、この作業を通じて比較文化研究の方法を提示したい。</p>	【講義計画】 <p>一度にあまり多くの事象を取り上げようとすると、不要な混乱が生じる恐れがある。そこで、まず一点を深く掘り下げた後で、それに関連する多くの事象に触れる。「狭い問題を取り上げて広い知識を与える」という方法で授業の成果を上げたい。教室で扱う資料はそのつど複写で配布する。</p>			
【成績評価の方法】 <p>① 一つの課題を終えるごとに授業内容の要約を提出させる。 ② 学年末に試験を行う。</p>	【参考文献】 <p>必要に応じて複写を配布する。</p>			
【教科書】 <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	山 本 雅 代
【講義概要・学習目標】 <p>「『言語学』って何をやるもんなんですか。国語みたいなもんですか」。これは昨年度、開講そうそう、受講生の一人から尋ねられた質問である。なるほど、これまで「言語」と言えば、学生諸君にとっては、「国語」や「英語」などの個別の言語の学習を意味するものだったのであろうから、そういう質問が出て当然であろう。</p> <p>しかし、「言語学」とは、そうした個別言語の能力習得・伸長を図ることを目的とした「言語教育」とは別個のものである。「言語学」とは「『言語とは何か』とか『言語はどのように働くか』という根本的な問いに答えようとする学問である」(エイチソン, 1995: 2-3)。我々にとり、「言語」は最も身近なもの1つでありながら、その正体、またそのメカニズムについて理解の及んでいないところが大きいものである。「言語とは何か、またどのように働くか」という、このとてつもない問いを共に考えてみようというのが本講義である。</p>	【講義計画】 <p>【前期】言語そのものの分析(単位や構造)を中心とした講義 《テーマ》言語学とは何か、言語の特性、動物と人間言語、音声学、音韻論、形態論、単語、統語論、意味論など 【後期】言語とその周辺領域との関連に焦点をあてた講義 《テーマ》語用論、言語の使用、言語と社会、言語の変化、手話、言語の比較、言語と心・脳、言語とコンピュータ、言語相対性・言語普遍性など</p>			
【成績評価の方法】 <p>1) 学習に対する意欲、 2) 質問、意見表明等を通じた授業への積極的参加、 3) 定期試験の結果をもとに総合的に判断する</p>	【参考文献】 <p>中島平三・外池滋生(編著)『言語学への招待』(大修館書店) V. フロムキン・R. ロッドマン(著)／梅田ほか(訳)『言語とは何か』(あぼろん社) S. ピンカー(著)／棕田(訳)『言語を生み出す本能(上・下)』(日本放送出版協会) 風間喜代三ほか(著)『言語学』(東京大学出版会) 小泉保(著)『日本語教師のための言語学入門』(大修館書店)</p>			
【教科書】 <p>後日、指定する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域文化概論	01	通 期	4 単位	井 本 英 一
[講義概要・学習目標] 多くの民族は「異界訪問」の文脈を持つ。これらの文脈は仙典を含めて、極楽や地獄のありさまと微に入り糸を穿て描写する。不思議なことにこれらの物語りに共通点がある。川、舟(頭)、トンネル、暗黒、光明、お花畑、花人、美少女(美少年)などのモチーフである。これらは、臨死体験者が語る録生譚にみえるモチーフと同じである。その他、夢に潜り得る物語から伝承について解説する。	[講義計画] 1. 天孫降臨、カ大国主神の神話と「旧約聖書」の「創世記」のカノプとヨセフの話、 2. 山や高い場所の信仰、 3. 自ら死んで自らを救い、他を救済する救世主、 4. うばすて山の話の発生とその意味、 5. トーテムと始祖、 6. 他人の見た夢を言う話、 7. 言語接触と文化伝播 などについて論じる。			
[成績評価の方法] 期末試験の得点によって評価する。	[参考文献]			
[教科書] 井本英一『夢の神話学』法政大学出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域文化概論	02	通 期	4 単位	井 本 英 一
[講義概要・学習目標] 人間の行儀とは、各民族、各地域でそれぞれ独自のものである。しかし、世界的な視野で分析してみると、これらの人間の行儀や習俗には多くの共通点があることに気がつく。本講義では、地球文化を比較文化学の相関性について解説する。	[講義計画] 「日本の歳時記と東アジア、西アジアのそれ」「初物の話」「大地のへそ」「あべこべの世界」「木の枝と再生」「死者を打つ話」「巡礼道の起源をたずねて」「沈黙交易」「嵐波の化身」「聖なる盆」「ピラミッドと前方後円墳」などを論じる。			
[成績評価の方法] 期末試験の得点によって評価する。	[参考文献]			
[教科書] 井本英一『輪廻の話』法政大学出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化史	01	通 期	4 単位	横 井 清
	02	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
日本の文化について歴史的に通観する。総じては、日本文化史上の重要な事象について、使用教科書の記述によりながら、初歩的・基礎的な「知識」を身に付けるようにいざないたい。その上で、本学が教育理念の根本におく「国際的な視野」に立って日本文化を見直して行くための手掛かりを得させたい。		前期においては原始・古代～中世の文化史を追い、後期には近世～近代を対象として講義する予定。		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
学年末の筆記試験による。		必要に応じて随時授業の中で紹介する。		
[教科書]				
家永三郎著『日本文化史（第二版）』（岩波新書）毎時間必携。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、『な』に濁点の『な』が発音できないのは何故?」「大(おお)+型(かた)=おおがた(連濁あり)。×おおかた)なのに、何故、大(おお)+風(かぜ)=おおかぜ(連濁なし)。×おおがぜ)なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」答えられなくても心配御無用。(簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達(=教師)が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。(脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起きているのか説明できないのと同じ。)日本語学を次の三つの視点から概論する。(1)生物言語学の視点=霊長目ヒト科哺乳類の奇形的に腫れあがった脳のニューロン群の働きの一例としての日本語。(2)教育学の視点=日本語を母語としない者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。(3)哲学の視点=「自分とは何者か」という問いを(暇な時に)考えるための手がかり。		<前期> 1. 文字と音 (e.g. 音素と発音の関係、拍、濁点など) 2. ことばの単位 (e.g. 連濁、形態素、活用など) <後期> 3. 文の成り立ち (e.g. 必須補語 vs. 副次補語、c-command、取り立て助詞「は」、埋め込み文、テンスなど)		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席・筆記試験		野田尚史『はじめての人の日本語文法』（くろしお出版）		
[教科書]				
上山あゆみ『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』（くろしお出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳
[講義概要・学習目標] 異なる出自文化を持つ者とのコミュニケーションや、異文化同士がコミュニケーションを行う場合に発生する諸問題について講じる。 講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。 情報は文化を生成し、文化は人間に対し規範的にかかわる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は、実は、異文化よりもむしろ自文化にある。 文化とは、脳内情報の延長物として外在化され脳外に存在するものもあるが、ひきょう、民族の成員個々の脳内にある共通の記憶の総和である。したがって、文化とは情報の偏在化現象なのである。 さて、諸君は慣れ親しんできた自文化をどこまで乗り越えられるであろうか。	[講義計画] 1 はじめに：異文化間コミュニケーション論とは 2 「文化」とは何か（所相として）：静態と動態。 3 自文化中心主義と文化相対主義。相対主義批判。 4 「文化」とは何か：再考。定義。情報代謝理論。 5 コミュニケーションの志向性と型。 6 コミュニケーションの動因と文化型。 7 文化フィルターとしてのコミュニケーション型 8 言語と文化：サピア・ウォーフの仮説を中心に 9 コミュニケーション能力と言語能力 10 非言語コミュニケーション(1) 11 非言語コミュニケーション(2) 12 コミュニケーションの文化型：片立文化と両立文化 13 日本的コミュニケーション(1)：両立型特性 14 日本的コミュニケーション(2)：宗教史より 15 日本的コミュニケーション(3)：宗教的影響 16 日本的コミュニケーション(4)：時空感覚 17 日本的コミュニケーション(5)：土着と外来 18 日本的コミュニケーション(6)：否定と肯定 19 日本的コミュニケーション(7)：「理解」法の比較 20 アメリカ的コミュニケーション(1)：国民性の形成 21 アメリカ的コミュニケーション(2)：特殊性と特性 22 異文化間コミュニケーション(1)：循環の法則 23 異文化間コミュニケーション(2)：異なる価値観 24 まとめ：定量的方法と定性的方法：特徴と限界 25 予備日、または試験			
[成績評価の方法] 前期末、学年末筆記試験による。	[参考文献] 橋本満弘・石井 敏（編）遠山 淳 他（共著）『日本人のコミュニケーション』（桐原書店、1993） 古田 暁（編）石井 敏・岡部明一・久米昭元（共著）『異文化コミュニケーション』（有斐閣、1987） 祖父江孝男（著）『文化人類学入門 増補改定版』（中公新書、1992） 他は、授業中に発表する。			
[教科書] 遠山淳・他（編・著）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣、1998）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文明論 — 文明の交流・摩擦および衝突の諸相 —		通 期	4 単位	片 倉 穰
[講義概要・学習目標] この講義では、最近の文明論を参照しつつ、世界史上に存在した、かつ現に存在している諸文明の特徴を明らかにし、これらがいかに交流し、互いに他の文明を受け入れ、変容を遂げたか、その交流と接触の過程で摩擦あるいは衝突を起こした原因、およびその結果などについて、さまざまな角度から吟味・検討を加える。 世界史において強い影響があったにもかかわらず、正当な評価を受けていない文明、たとえばインドやアフリカの諸文明についても具体的に考察する。 また日本は、比較文明論を研究する絶好の場であり、そのための素材を提供してくれるところでもあるので、日本と諸文明とのかわりにも注目して行きたい。	[講義計画] はじめに — 文化と文明、文明との出会い [1] 第1部 文明の比較 (1) 東洋と西洋 (2) 病気の比較文明論 (3) こどもの受難 — 東と西 (4) 「鎖国」を考える — 17世紀の東と西 [2] 第2部 文明の交流と受容 (1) 文明交流と言語 — ヨーロッパの場合、アジアの場合 (2) 日・朝・中の西洋文明受容 — その共通点と相違点 [3] 第3部 文明の摩擦・衝突 (1) 狩猟・遊牧文明と農耕文明 (2) ヨーロッパ文明とイスラーム文明 (3) 現代のアメリカとイスラーム [4] 第4部 世界史における文明の諸問題 (1) 文明の十字路 — その問題点 (2) 世界史におけるインド文明の位置 (3) 世界史のなかのアフリカ諸文明 (4) その他 おわりに — 改めて文明を考える			
[成績評価の方法] 期末試験等により評価する。	[参考文献] 竹内実『日本史を海から洗う』南風社、1996年 伊東俊太郎『比較文明学を学ぶ人のために』世界思想社、1997年 その他教室で紹介する。			
[教科書] とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	01	通 期	4 単位	野 尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地理学は「地域」・「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとした。</p> <p>地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。</p> <p>従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。</p> <p>社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉1. 探検記・産物誌から近代地理学へ 地理と地誌の違い 2. 生態学的視点と地域システム フンボルト・リッター ラッツェル・ブラーシュ 3. コロロギーから「地域分化」の研究へ リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン 4. 地理学における例外主義批判と計量革命 5. 「地域」と「空間」の違い 流動を分析する視点グラヴィティモデル 6. 行動地理学とタイムジオグラフィ</p> <p>〈後期〉7. 人文主義地理学 場所や景観の意味づけについて 8. マルクス構造主義と都市研究 9. 立地論 ウェーバー 輸送費・労働費・集積の利益 10. 立地論 レッシュ 市場の均衡と立地条件 11. クリスタラーの中心地研究 12. ハブの商圏モデル 13. 地理学とは何だろうか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履修状況のみで決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ディッケン・ロイド『地理と空間 上下』古今書院 西川 治 『人文地理学入門』東大出版会</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	02	通 期	4 単位	藤 森 勉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、人間の社会生活・社会活動が「地域」とどう関わってきたか、どんな問題があるかを事例研究の成果をもとに具体的に解説する。</p> <p>その場合、地域の大きさや社会集団の大きさによって、それぞれ異なった関係が見られるので、前期は大スケールの場合を後期は小スケールの場合を取り上げる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〔前期〕大スケールの地域としてオーストラリアを対象とし、次の課題を解説する。</p> <p>(1) 先住民アボリジニーの生活と社会。 (2) イギリス植民地政策とアボリジニーの社会生活。 (3) 連邦成立と中国人・日本人移民。 (4) 日豪経済関係。</p> <p>〔後期〕小スケールの地域として日本国内の諸地域について地域社会問題を解説する。</p> <p>まず、人口分布・人口構成を解説した上で、 (1) 平野の農村 (2) 島の漁村 (3) 過疎山村 (4) 地方小都市 (5) 巨大都市を対象として地域の実態と問題点を解説する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じ紹介する。また、地図・資料等のプリントを配付する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文化人類学	02	通 期	4 単位	小 池 誠
[講義概要・学習目標] 文化人類学は、自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住む様々な人々の文化的多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチと方法論を通して異文化にたいする理解を深めることを目的とする。様々な民族の多様性だけでなく、多様性を通してあらわれてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく異なる習慣や社会のあり方をたんに珍しいものとか、遅れたものと見なすのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化人類学の視点を理解してもらいたい。また、今日大きな話題となっている多文化社会と民族問題についても、より身近な問題として考えてもらいたい。受講者の関心と理解を深めるため、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。	[講義計画] 〔前期〕 1 文化人類学とは何か？ 2 人類の文化と言語（文化とは何か、人類の言語はどんな役割をもつのか？） 3 家族と結婚の多様性（私たちにとって家族とは、結婚とは何か？ そして異文化では） 〔後期〕 1 政治と経済（どうやって人は力をもつか、交換はどんな意味をもつのか？） 2 国家と民族（民族とは何か、なぜ民族は憎しみあうようになるのか？） 3 宗教と儀礼（人は何を信じ、何を願うのか？）			
[成績評価の方法] 年度末試験の成績を基本にして評価する。ただし、出席状況、および夏休みの課題レポートと必要に応じて提出を求める小レポートの成績も加味する。	[参考文献] 講義のなかで必要に応じて紹介する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		通 期	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標] 応用言語学とは何かについて考えたあと、 1. 言語問題の学（言語障害、識字、言語交差など） 2. 外国語教育学（教授法、教材・教具論、評価論） 3. 学際的言語学（言語学と隣接科学） 4. 言語と専門職の研究（通訳・翻訳、言語治療など） の4つの立場から応用言語学の課題と方法について明らかにしたい。 この科目を履修する過程で次第に身近な言語コミュニケーションの問題に関心が高まり、ことばについて多角的に考える習慣が形成されることが学習目的である。	[講義計画] <前期> 第1週～第2週： 序論・応用言語学とは何か 第3週～第7週： 言語問題の学 第4週～第13週： 外国語教育学 <後期> 第1週～第7週： 学際的言語学 第8週～第12週： ことばと専門職 第13週： まとめと復習			
[成績評価の方法] レポートと年度末試験の結果を勘案して判定する。	[参考文献] Richards, Jack et al. <u>Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics</u> . Longman.			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較芸術学		通 期	4 単位	リン 林 コウサク 宏 作
【講義概要・学習目標】 すべての観察は比較ということの上に成り立っている。比較するということは、その座標として、比較が行なわれるための一定のカテゴリーを前提とする。この講義では、直立モチーフや運動モチーフなど基本的なモチーフにもとづいて、エジプト・西アジア・ギリシア・西欧・インド・東亞における彫塑の特徴を概述し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。 なお時間の余裕があれば、日中両国における水墨画の比較にも言及したい。	【講義計画】 1. 比較芸術学の課題 2. 研究領域の範囲 3. 直立モチーフについて 4. 運動モチーフについて			
【成績評価の方法】 レポートの提出と試験の成績。	【参考文献】 「近代芸術学の成立と課題」(吉岡健二郎著, 創文社) 「芸術の世界」(井島勉編, 創文社)			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較宗教学		通 期	4 単位	小林 信彦
【講義概要・学習目標】 仏教でブツになるのは「心があるもの」に限られていて、植物には心がないと考えられている。ところが、日本人は「草や木も佛になる」と言う。万物に「たま」が宿ると信じる日本人にとって、植物を含む自然と人間の間には明確な境界線がないのである。この授業では、「ブツ」と「佛」との違いを手掛かりに、インド人の宗教と日本人の宗教を比較する。	【講義計画】 資料として中国語文献と日本語文献を用いる。中国語文献は読み下し文を用意し、日本語文献は原文のまま用いるが、いずれも教室で複写を配布する。			
【成績評価の方法】 ① 三週間ごとに講義内容の要約を提出させる。 ② 学期末ごとに試験を行う。	【参考文献】 必要なものは複写して配布する。			
【教科書】 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文学		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
<p>〔講義概要・学習目標〕 近年、わが国では比較文学研究がますます盛んになってきた。比較文学は今世紀のはじめ、フランスにおいて始まった学問である。そして1960年代にひとつの頂点に達したものである。 この学問は文学研究の一方法であり、その意味では、例えばフランス文学研究等と同質のものであった。加えて同時代の外国文学の深い影響を考察するものであることが、厳守され、それに反する研究は比較文学とは見なされなかった。また古典の比較文学的研究も歓迎されなかった。 このような多くの制約から自由になるうとして起こったのがアメリカを中心とした対比的研究方法である。この方法から派生した比較文学と平行して比較文化を考察しようとする方法は意外な成果を生み、わが国においても比較文学・比較文化の研究が主流となってきた。 基本のアカデミックな比較文学の方法を紹介しながら、新しい対比研究の方法をも具体的に考察する。</p>		<p>〔講義計画〕 現在、わが国の多くの大学で比較文学の講義を担当している多くの研究者が大学生のために書き下ろした数編ないし十数編の論文に触れながら、比較文学・比較文化を学ぶ楽しさを引き出して行く。コスモポリタンなものの考え方をすることの大切さを常に意識したい。</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かれないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>		<p>〔参考文献〕 富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』（駿河台出版社）</p>		
<p>〔教科書〕 松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（社会言語学）		通 期	4 単位	橋 内 武
<p>〔講義概要・学習目標〕 社会との関係でことばのしくみとはたつきについて考えるのが社会言語学である。ことばを自律的な体系として捉える狭義の言語学とは異なり、相互依存の体系として捉えるのが社会言語学の言語観である。それゆえ、社会言語学は学際的傾向もつ。 前期には、マクロ社会言語学の中核をなす談話分析（discourse analysis）の基礎と方法と応用について学ぶ。後期にはそれ以外の分野の基本的事項（例えば、多言語社会論、言語変異論（社会方言論とレジスター論）など）を押さえる。 究極的には、履修する学生諸君がことばに対する規範的な思い込みから解放されてより視野の広い言語観をもつようになることをもって、本講の学習目的としたい。</p>		<p>〔講義計画〕 前期 第1週～第3週 ミクロ社会言語学と談話分析の基礎（対象・方法・目的） 第4週～第10週 談話分析のアプローチ（会話分析・ことばの民族誌など） 第11週～第13週 談話分析の応用（法言語学・文体論・辞書論・教材論など） 後期 第1週～第4週 マクロ社会言語学の課題としての多言語社会論 第5週～第8週 言語の多様性 ― 社会方言と言語変化 第9週～第12週 言語の多様性 ― レジスターと言語意識 第13週 補講とまとめ</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 レポート（前期）と試験（後期）を総合して最終的な成績評価を与える。</p>		<p>〔参考文献〕 真田信治、ダニエル・ロング 『社会言語学図集』 秋山書店、1997。 真田信治、渋谷勝己、陣内正敬、杉戸清樹 『社会言語学』 おうふう、1992。</p>		
<p>〔教科書〕 橋内 武 『ディスコース ― 談話の織りなす世界』 くろしお出版、1999 Homes, Janet <u>An Introduction to Sociolinguistics</u>. Longman, 1992</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化特講 (色彩から見る東西社会史)		通 期	4 単位	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley
【講義概要・学習目標】 ある国、ある文化の色彩感覚からは、その国や文化について多く学ぶことができる。好むものと好まざるもの、「是」とされるものと「非」とされるもの、「内」のなかに含まれるものと「外」に締め出されるもの等などの区別は、しばしば色彩表現に表れる。たとえば、日本語では「腹黒い」、「赤心」、「色白」などがある。英語では、「Yellow Peril」、「black lies」/「white lies」がある。中国では「紅眼病」(ジェラシー)がある。 当講義ではヨーロッパ、日本、そして中国の色彩表現を見つめてそれぞれの、特に人種意識を中心に比較しながら考えてみたい。なお、使用する言語は英語だけれども、どの学生も頑張れば聞き取れるようありとあらゆる工夫はするので、安心して受講してください。しかし、どの学生も毎回出席する義務があり、提出物も毎週要求される。		【講義計画】 未 定		
【成績評価の方法】 レポート、小テスト、試験(前期・後期)、および出席率		【参考文献】		
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化特講 (ヒトの起源・身体と文化)		通期	4 単位	尾本 恵市
【講義概要・学習目標】 ヒト (ホモ・サピエンス) は分類学上はサル的一种であるが、文化によって環境に適応するばかりか、環境を改変し、さらに改変された環境に適応するという「文化依存性の進化」をとげたために、一般のサルとは身体的にも行動上も非常に異なる存在になった。また、ヒトは文明をつくる唯一の動物であるが、それも文化依存性の進化の一つの帰結である。現在われわれが直面する地球の多くの危機的状況はここに原因がある。われわれは、子孫のためにも、このことを自覚し、対処する方策について考えなければならない。この講義では、このようなヒトの生物としての歴史の特異性と現代文明下での問題点について、自然科学的事実を文化系の学生にわかりやすく説明することを目標とする。		【講義計画】 ほぼ次のような項目について講義する予定。 (1) 自然の中のヒトの位置。 (2) ヒトの身体的特徴。 (3) 人類の起源。 (4) 進化と適応。 (5) 文化と文明。 (6) 現代人の起源と地理的多様性。 (7) ヒトの成長の特殊性。 (8) ヒトの行動と文化。 自然科学の成果を文科系の学生にわかりやすく解説するために、スライドを多く使用する。また、質問を歓迎し、専門用語等をできるだけ平易な言葉で説明する。共通ゼミ3「現代文明とヒト」とは関連することが多く、重複する内容があるが、理解を進めたい学生は両方を履修することを歓迎する。		
【成績評価の方法】 出席点およびレポートによる。		【参考文献】 「分子人類学と日本人の起源」尾本恵市 裳華房 (1996)		
【教科書】 「ヒトはいかにして生まれたか」尾本恵市 (岩波書店)、(1998) その他、随時プリントを配布。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化史		通期	4単位	原山 煌
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>気候は酷暑から炎暑まで。生業も遊牧、漁撈、そして農耕。一口にアジアと言っても実に多様な表情がそこにはある。</p> <p>本講義では、アジアの多様な表情を概括的に、しかし確実に把握し、そのうち、いわば各論として、農耕民と遊牧民の関係を歴史的にふりかえってみる。中国を中核とする東アジアの歴史は、この両者のかかわりによって展開されてきたと言えるからである。</p> <p>遊牧民が大きく関わってくりひろげられてきた東西交流のありようをも、かれらの立場から考えてみよう。ユーラシアの歴史が、今までの認識とはちがう新しい姿で立ち現れるはずである。</p> <p>また、現在世界を揺るがせている民族問題も、この地域の大きい問題点となっている。巨大な多民族複合国家としての中国、興味深い比較対象としてのロシア世界における民族問題をも視野に入れて、その発祥と経緯について考察を進めてみよう。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アジア世界の概括的理解 2. 2つの生業－農耕と遊牧－ 3. 遊牧という暮らし 4. 農耕民と遊牧民の相剋 5. 東西交流のありかた 6. 中国周辺における民族問題－その沿革と現状－ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への理解度を確保するための小テスト、年数回のレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に随時紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>松田壽男『アジアの歴史－東西交渉からみた前近代の世界像』同時代ライブラリー 岩波書店 1992。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本の歴史に大きな影響を与えた思想は神道・仏教・儒教・陰陽道・切支丹である。この講義では、それら諸思想の特性と相互作用を考察するとともに日本思想の歴史的な特質を追究する。授業は資料読解を通じて進めていくからそのための自主的な意欲がなければ、授業内容は理解できなくなることをあらかじめこころをわけておく。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 神道 (資料は『古事記』神代巻など) (2) 仏教 (『大無量壽經』など) (3) 切支丹 (『どちりいな-キリシタン』など) (4) 儒教 (『大学章句』など) (5) 陰陽道 (『大雑書』など) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験(講義全体を理解しなれば単位は取得できない。欠席しないこと、私語しないこと)</p>	<p>[参考文献]</p> <p>石田一良編:体系日本史叢書『思想史』(山川出版社、</p>			
<p>[教科書]</p> <p>資料配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料は配布時に出席しているもの(2/回限り交付する。 ○資料は毎時必ず持参すること。 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		通 期	4 単位	橋 内 武
〔講義概要・学習目標〕 <p>民俗学は庶民が生活の中で伝承してきた文化を観察・記録する中から成立した学問である。その対象範囲は生活文化全般にわたるが、本講では、前期に人生儀礼・年中行事・俗信、後期に口承文芸（とくに昔話）を取り上げる。これらの文化事象を扱いながら、民俗の見方を手に入れることが学習目標となる。</p>	〔講義計画〕 <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学とは何か 2. 人生儀礼 3. 年中行事 4. 俗信 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口承文芸とな何か 2. 昔話の分類（むかし語り、動物昔話、笑話、形式話） 3. 昔話研究法（起源・歴史・構造・機能） 			
〔成績評価の方法〕 <p>原則として試験による。但し、聞き書きまたは観察に基づくレポートを夏休み後に提出するとボーナス点が与えられる。</p>	〔参考文献〕 <p>赤田光男ほか編 「講座 日本の民俗学」 雄山閣</p> <p>稲田浩二ほか編 「日本昔話通観」 同朋社</p>			
〔教科書〕 <p>稲田浩二・稲田和子編著 「日本昔話百選」 講談社文庫</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化研究（歴史） （旧日本文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	横 井 清
〔講義概要・学習目標〕 <p>毎授業時間に一つの小主題を設定して講義する。個別の各主題は、特定の時代に限らず、内容的に前後の各時代へと自在にわたる。全体としては、日本文化を振り返りつつ、その特質について若い諸君が歴史的に考えて行くための方法、材料を例示する。</p>	〔講義計画〕 <p>例年通り、予め計画は提示せず、季節感覚、折々の社会・文化現象、さらには受講者たちの関心の所在や方向性などを考慮に入れながら、そのつど小主題を特定しつつ実施する。</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>学年末の筆記試験による。</p>	〔参考文献〕 <p>各主題に応じた内容の資料プリントを、そのつど配付する。</p> <p>参考とすべき図書などについては、必要に応じて随時授業の中で紹介する。</p>			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化研究（文学） （旧日本文学概論）		通 期	4 単位	深 澤 徹
〔講義概要・学習目標〕 平安時代の文学テキストについて概説する。おそらく受講者は女性が多いであろうから、仮名文で書かれた「女流文学」の流れに注目しながらその歴史的展開を跡付ける。実は「女流文学」という呼称自体が問題で、まずこうした枠組みの成立（それは鎌倉期になってようやく形成される）の問題から入っていく予定である。ただ単に、テキストに沈潜するのではなく、その歴史的な流れを批判的に見ていくつもりである。なおテキストの原文は古文であるが、その都度現代語訳しながら論を運ぶので、古文が苦手でも受講に支障は生じない。	〔講義計画〕 年度の始めに、詳細なシラバスを配布する。			
〔成績評価の方法〕 夏期と年度末の二つのレポートと、出席状況を総合的に判断して評価する。	〔参考文献〕 教場にて指示する。			
〔教科書〕 教場にて指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（韓国・朝鮮文化） （旧韓国・朝鮮文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	チョン ソン ヒ 田 星 姫
〔講義概要・学習目標〕 前期：朝鮮文化史について、その概略を理解する（韓国学概論）。 後期：近代日韓関係を比較文化史の視角から検討する。	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1 朝鮮史の時代区分について 2 朝鮮の生活文化（衣・食・住など）の変遷 3 精神文化（朝鮮の宗教・思想） 4 前近代における日朝関係（古代の文化交流、朝鮮通信使など） 5 日韓の相互認識（日本人の朝鮮観・朝鮮人の日本観） 6 近代における日韓両国の西洋化（19世紀後半、「断髪」問題など） 			
〔成績評価の方法〕 期末試験、出席率（授業中に小レポート提出など）の配点。	〔参考文献〕 井上秀雄・鄭早苗『韓国・朝鮮を知るための55章』明石書店 金容雲著・アジア文化交流協会訳『日韓歴史の理解』白蹄社 宋連玉他訳『韓国の歴史・国定韓国高等学校歴史教科書』明石書店 アーソン・グレブスト著・高演義他訳『悲劇の朝鮮』白蹄社 その他、授業中、適宜紹介する。			
〔教科書〕 特になし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化研究（東南アジア文化） （旧東南アジア文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	小 池 誠
【講義概要・学習目標】 この講義では歴史と言語、民族の構成、多様な民族文化から始めて、今まさに変化しつつある東南アジアの社会と文化の現状までをテーマとして取り上げる。多様な文化のあり方を理解するために伝統芸能や儀礼などの民族文化だけでなく、映画・ポップス・テレビなどの現代のポピュラー文化なども題材に取り上げたい。受講者の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を使用する予定である。多様な東南アジア諸国のなかから、前期はインドネシアを中心に、後期はシンガポール・フィリピン・タイを中心にして講義を進めたい。受講者には、各国の民族的・文化的多様性をその歴史的背景とともに知ってもらいたい。また、それぞれの国民が現代の国家体制のなかでどのように生き、どう自分たちを表現しているのか理解してもらいたい。		【講義計画】 （前期） 1 東南アジアへのアプローチ法 2 東南アジアの民族と文化 3 インドネシアの歴史・言語・宗教 4 インドネシアの衣食住 5 インドネシアの地方文化（ジャワとスンバ） 6 インドネシアのポピュラー文化（テレビとポップス） （後期） 1 シンガポールの二言語教育 2 シンガポールの住宅と生活 3 フィリピンの多様な民族文化（山の民と海の民） 4 タイの仏教と都市文化 5 タイの民族芸能		
【成績評価の方法】 年度末試験の成績を基本にして評価する。ただし、夏休みの課題レポートと必要に応じて提出を求める小レポートの成績も加味する。		【参考文献】 講義のなかで必要に応じて紹介する。		
【教科書】 小池誠『インドネシア——島々に織りこまれた歴史と文化』三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文化史		通 期	4 単位	岩 津 洋 二
【講義概要・学習目標】 「西洋」と称される地域には多くの民族が存在し、それぞれ独自の文化的な伝統をもっている。その点では、世界の他の地域の場合と同様である。しかし、今日の世界において「西洋」は単なる一地域の名称にとどまるものではなく、先進の近代社会の代名詞でもある。多くの国々にとって近代化とは西洋化のことにほかならない。明治以降の日本と日本人にとっても、西洋と西洋人は模倣すべきモデルであった。 今年度の講義では、前期は「西洋文化」の特質について、一般の日本人にはなじみの薄いであろう側面にも焦点を当てながら概説する。後期は、世界史の中での「西洋」の位置について検討するとともに、現代のヨーロッパで最重要課題のひとつとなっているナショナリズムの問題もとりあげる。 近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えている。		【講義計画】 Ⅰ. 西洋文化史の課題と射程 Ⅱ. 西洋文化の伝統と近代 Ⅲ. 西洋の統一性と多様性 Ⅳ. 西洋の自己規定 （第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す）		
【成績評価の方法】 何回かのレポートと学年末の試験による。		【参考文献】 授業中に指示する。		
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋思想史		通期	4単位	山川偉也
〔講義概要・学習目標〕 今年度は「哲学の根本問題―時間と自己―」と銘打って、西欧思想史上の十人の哲学者、すなわちヘラクレイトス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、デカルト、カント、ヘーゲル、ベルクソン、ハイデッガー、ウイトゲンシュタインを取り上げる。	〔講義計画〕 前期はヘラクレイトスからアウグスティヌスまで、後期はデカルトからウイトゲンシュタインまでを講義する。			
〔成績評価の方法〕 出席態度と前・後期の試験の結果を総合して判定する。	〔参考文献〕 教科書として挙げたものは前期講義分に利用するものである。後期については適当な教科書がないので、必要となったときに参考書を指示することにする。			
〔教科書〕 山川偉也『古代ギリシアの思想』（講談社学術文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教史		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
〔講義概要・学習目標〕 本年度は、ヨーロッパ宗教改革に対するカトリック側の反宗教改革運動の中で成立したイエズス会、及びイエズス会士フランシスコ・デ・ザビエルの活動を手がかりに、近世のキリスト教の歴史を広く学ぶ。またこの時代の西ヨーロッパの国際関係、海外貿易、帝国主義的な進出にも言及し、教会の側からみた教会の歴史ではなく、人類の歴史におけるキリスト教の動きに注目する。 キリスト教とアジア文化、特に日本の文化との接触の問題もとりあげる。	〔講義計画〕			
〔成績評価の方法〕 前期提出のブックレポート 2～3本 学年末試験	〔参考文献〕 『聖フランシスコ・デ・ザビエル書翰抄』 上・下巻、 (岩波文庫 青 818-1・2)			
〔教科書〕 ・フィリップ・レクリヴァン『イエズス会』（「知の再発見」双書 53） 創元社 1996 年 ・遠藤周作『沈黙』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（イギリス文化） （旧イギリス文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
[講義概要・学習目標] 現代の「英国」は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドからなる「連合王国」であり、政治経済的・文化的に多様な要素を内包している。宗教的にも異なる伝統が共存している。王室の君臨する国であると同時に、議会制民主主義の発祥の地でもある。人々の気質は内向的でありながら、帝国主義植民地支配を長期にわたって行った。近代資本主義の誕生の地とも言われる。イギリス文化を単純に語ることは許されない。 本年度の講義では前期において、19世紀以降のイギリスを特徴づける最も重要な思想家の一人である J. S. Mill (1806-73) の『代議制統治論』に直接触れ、この著作を座標軸として多様なイギリス文化の諸側面を検討する。後期は、学生による研究発表を中心とする。	[講義計画] 序論として、イギリス政治社会思想の特徴を歴史的に概観する。 本論として、世界の議会制民主主義の端緒となったイギリス議会制度について検討する。議会の活動を通して、イギリス文化の様々な側面にふれることができる。 なお、本学図書館は、日本に数少ない、英国議会記録の網羅的なコレクションを所蔵している。図書館専門職員の協力を得て、この貴重な資料へのアクセスも試みる。夏休みに課せられる小論文の作成には、この議会文書等の英語文献の利用を義務づける予定である。受講生はそのつもりでいること。			
[成績評価の方法] 前期に提出のブックレ・ポート 2～3本 夏休みに作成の小論文 後期におけるグループでの研究発表	[参考文献]			
[教科書] J. S. ミル『代議制統治論』（岩波文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ文化研究（フランス文化）		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
[講義概要・学習目標] 交通・通信手段の発達によって、ヨーロッパは近くなったとはいうものの、やはりわが国からは遙かに遠い存在である。そしてその遠い存在であるヨーロッパそのものは多様である。また多様でありながら、たしかにヨーロッパというひとつの文化圏を持つていのである。 西欧中の西欧といえるフランスの文化は、確かに世界中から憧憬の眼を持って見られる文化のひとつであるが、時にアングロ・サクソンの文化圏からは、揶揄の対象としても見られる。 フランス文化の本質は、重厚で農民的なものである。もちろん厚い信仰心が文化の基層に在ることも忘れてはならない。そしてもっとも重要なことは、絶えず世界のあらゆる文化を見つめ、その文化に憧憬を持ち、その文化を自己のものとして取り込む独特の才能であろう。このフランス文化の他の追隨を許さないコスモポリタンな性格を考察する。	[講義計画] ヨーロッパ文化としてひとつに括ることのできる文化の特質とは何かを先ず考える。次いでフランス文化について学ぶが、特にこの文化の根底に在る厚い信仰の問題、農民的な精神に触れたい。同時に都会中の都会であるパリの文化を考え、そのコスモポリタンな文化の受容の姿勢を考える。			
[成績評価の方法] 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かさないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。	[参考文献] 富田仁著『パリ点描』（駿河台出版社）			
[教科書] 小林 善彦著『フランス学入門』（白水社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカ文化研究 (旧アメリカ文化研究Ⅱ)		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
[講義概要・学習目標] 何もなかった新大陸に移民たちが渡った時から、せいぜい300年くらいの間にヨーロッパ諸国に伍して世界をリードする超大国を作り上げたアメリカ人とは一体何なのか。アメリカ人ははどのようにしてアメリカ人になったのか。そのエネルギーの本質はどのようなものなのか。アメリカには文化というにふさわしいものがあるのか。このような問題を考えながらHenry B. Parkesの著書を読み、これを補足し、批判し、さらに解説を加えながら講義を進める。	[講義計画] 1-5 アメリカ革命と独立 7-11 西部開拓 12 まとめ 13-20 宗教：アメリカ文化の根底 21 まとめ			
[成績評価の方法] 期末試験2回	[参考文献]			
[教科書] Henry B. Parkes著 <i>The American Experience</i> (研究社出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語		通 期	4 単位	山本 浩子
[講義概要・学習目標] インドネシア語は、マレー語を母体とするインドネシア共和国の公用語である。ゆえに、様々な違いはあるものの、マレーシアやシンガポールでもインドネシア語は通じる。インドネシア国内には、一方で地方語というものがある。バリやジャワなど、各地域の民族集団が独自に用いて、豊かな言語世界を形成している。この地方語と公用語としてのインドネシア語は、日本での方言と標準語という対比とは違い、大きく異なる言語である。ゆえに、インドネシアでは、政治、教育、マスコミなどの公の場ではインドネシア語が共通語として用いられる一方で、例えば同じバリ人どうしの間では、地方語であるバリ語が用いられ、それはたとえ同じインドネシア人であっても、バリ人以外には理解のできない言語である。 授業では、インドネシア語の基本的な運用能力の習得を目標とする。かつ、講義終了後も、各自の必要に応じて独習を継続する力を身につけることを目標とする。まず簡単な会話文をもとに、最小限の文法事項を説明していく。前半では、学習の初期段階として、暗記が重要であることを心掛けてほしい。後半では、前半での習得事項をもとに、少しでも実際に口に出してコミュニケーションがとれるようになることをめざす。	[講義計画] <前期> 発音/挨拶・自己紹介の表現/人称代名詞/DM (修飾・被修飾語)の法則/疑問詞の使い方/数量の表現/時の表現/場所の前置詞/等位接続詞/接辞 (インドネシア語の造語法)/辞書の引き方 <後期> 命令文/インドネシア語の態/さまざまな接辞の用法/その他の前置詞・接続詞/簡単な作文/会話練習/聞き取りの練習/読解			
[成績評価の方法] 授業参加度と前期末と後期末の筆記試験の成績を総合して評価。	[参考文献] 辞書については授業中に案内する。			
[教科書] 柴田紀男 (著) 『エクスプレスインドネシア語』 (白水社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
貿易実務		通 期	4 単位	桜 井 勝 友
[講義概要・学習目標] 狭く地下資源にも乏しい日本の国土で、就職難にあえぐ余剰人口を救う道は国際貿易の場の中にかか残されていない。21世紀の主役になる当学の学生諸君はこの実情を認識し海外で大いに活躍出来る人材になってもらわねばならぬ。扱う商品や取引形態の如何を問わず貿易実務の基礎知識なしに海外に飛び出すのは、海図なしに航海に乗り出すのに等しい。その基礎知識の習得をこの学習の目標とする。 英語（特に商業英語）の能力は当然要求される故、その講義の履修または積極的自習をお願いする。	[講義計画] 日本の国際貿易取引の現状認識 取引先の開拓、調査、及び選定 取引形態の決定 具体的商談開始（取り決めるべき諸条件） 契約の締結 契約の履行（「物の移動」及び「金の移動」） 保険の基礎知識 外国為替の基礎知識 クレームその他問題発生とその対処 三国貿易の促進と要求される人材			
[成績評価の方法] 前・後期期末試験成績、出欠状況、受講態度（積極性）。	[参考文献] 「マンガ貿易入門」 宮下 忠雄著（サンマーク出版） 「体系貿易商務論」大塚 朝夫、他 著（成美堂） 「貿易実務」加藤・ビザ時代の貿易取引 大塚 朝夫監修（成美堂） ナイトブック「貿易実務」来住 哲二 編（有斐閣ブックス）			
[教科書] 「貿易実務がわかる本」 宮下 忠雄 著（PHP）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標] 外国語学習に「おかしい」文はつきものである。（*：おかしい文。） a.*困ったらいつでも私へ来なさい。 b.*私が京都で撮ったの写真 c.*私の父は山田先生を知ります。 d.*先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。（このままでは失礼） 何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「我在京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"＝「知る」だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るためのおよそ百題の問いが用意してある。それらの中からポイントとなる問題を解いていく。	[講義計画] <前期> 1. 日本語のきまりと仕組み、2. 文の構成要素とその種類分け、3. 「こと」の種類（述語の種類とその補語との結びつき）、4. 「主語」「主格」「主題」、5. 述語の活用、6. テンス・アスペクト、7. 態（ヴォイス一格と動詞の形との相関）、8. 心的態度（ムード）の表現 <後期> 10. 複文の種類、11. 並列的接続、12. 理由・原因、13. 時の特定、14. 条件の表現、15. 連体修飾			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』（くろしお出版） 寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』（くろしお出版） 寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』（くろしお出版）			
[教科書] 寺村秀夫（著）『日本語の文法（上）』（国立国語研究所（日本語教育指導参考書4）） 寺村秀夫（著）『日本語の文法（下）』（国立国語研究所（日本語教育指導参考書5））				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健																
[講義概要・学習目標] <p>ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。</p> <p>この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。</p>	[講義計画] <table border="0"> <tr> <td>1. 単語と語彙</td> <td>3. 語の種類</td> </tr> <tr> <td>1) 単語とは</td> <td>4. 語構成と造語法</td> </tr> <tr> <td>2) 語彙とは</td> <td>1) 語の構成成分</td> </tr> <tr> <td>3) 語形</td> <td>2) 造語法</td> </tr> <tr> <td>2. 語の数</td> <td>3) 造語に伴う音声変化</td> </tr> <tr> <td>1) 基礎語彙と基本語彙</td> <td>5. 語の意味</td> </tr> <tr> <td>2) 使用語彙と理解語彙</td> <td>6. 意味に関する問題点</td> </tr> <tr> <td>3) 語数とカバー率</td> <td>7. 語彙教育のポイント</td> </tr> </table>				1. 単語と語彙	3. 語の種類	1) 単語とは	4. 語構成と造語法	2) 語彙とは	1) 語の構成成分	3) 語形	2) 造語法	2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化	1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味	2) 使用語彙と理解語彙	6. 意味に関する問題点	3) 語数とカバー率	7. 語彙教育のポイント
1. 単語と語彙	3. 語の種類																			
1) 単語とは	4. 語構成と造語法																			
2) 語彙とは	1) 語の構成成分																			
3) 語形	2) 造語法																			
2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化																			
1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味																			
2) 使用語彙と理解語彙	6. 意味に関する問題点																			
3) 語数とカバー率	7. 語彙教育のポイント																			
[成績評価の方法] <p>定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。</p>	[参考文献] <p>森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう）</p>																			
[教科書] <p>浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』（国際交流基金／凡人社）</p>																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者											
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健											
[講義概要・学習目標] <p>言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合を扱う。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。</p> <p>1年次に「論述作文」を履修した人も多いと思うが、日本語を「表記する」という点から見つめ直すいい機会になればと思う。学部・専攻に関係なく、日本語に興味・関心のある人の受講を歓迎する。</p>	[講義計画] <table border="0"> <tr> <td>1. 日本語の表記法と基準</td> </tr> <tr> <td>1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）</td> </tr> <tr> <td>2) 平仮名の表記法（「改定現代仮名遣い」）</td> </tr> <tr> <td>3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）</td> </tr> <tr> <td>4) 送り仮名の付け形</td> </tr> <tr> <td>5) ローマ字の種類と表記法</td> </tr> <tr> <td>2. 文字に関する知識</td> </tr> <tr> <td>1) 漢字（の成り立ち）</td> </tr> <tr> <td>（六書、部首、画数、字形等）</td> </tr> <tr> <td>2) 仮名（の成り立ち）</td> </tr> <tr> <td>（真名、平仮名、片仮名等）</td> </tr> </table>				1. 日本語の表記法と基準	1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）	2) 平仮名の表記法（「改定現代仮名遣い」）	3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）	4) 送り仮名の付け形	5) ローマ字の種類と表記法	2. 文字に関する知識	1) 漢字（の成り立ち）	（六書、部首、画数、字形等）	2) 仮名（の成り立ち）	（真名、平仮名、片仮名等）
1. 日本語の表記法と基準															
1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）															
2) 平仮名の表記法（「改定現代仮名遣い」）															
3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）															
4) 送り仮名の付け形															
5) ローマ字の種類と表記法															
2. 文字に関する知識															
1) 漢字（の成り立ち）															
（六書、部首、画数、字形等）															
2) 仮名（の成り立ち）															
（真名、平仮名、片仮名等）															
[成績評価の方法] <p>定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。</p>	[参考文献] <p>国立国語研究所（編）『日本語教育指導参考書14 文字・表記の教育』（大蔵省印刷局）</p>														
[教科書] <p>富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』（国際交流基金／凡人社）</p>															

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ		通 期	4 単位	有 川 康 二
[講義概要・学習目標] <p>どんな教授法（教え方の哲学や方法）にも、どんな教科書にも長所と短所がある。要は様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。</p> <p>一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば、週 15 時間の約 6 か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い「使える日本語」を身につけてもらう為には、教える側に特別な知識と技術が必要となる。</p> <p>さらに「何故、外国語を学ぶのか、何故、日本語を外国語として教えるのか」といった日本語教育哲学に通ずるような問題意識も持ち続けてほしい。</p>	[講義計画] <p><前期> 1.こそあど、2.い形容詞・な形容詞、3.存在、4.時制、5.～て、～で、6.～ている、7.希望・願望、8.提案・申し出・勧誘、9.可能形、10.経験、11.意志、12.許可・禁止 <後期> 13.様態、14.推量（ようだ・らしい）、15.理由・原因、16.逆接、17.～ている・～である・～ておく、19.授受動詞、20/21.受身・使役・使役受身、22.条件</p>			
[成績評価の方法] 出席・筆記試験	[参考文献] 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）			
[教科書] 東京 YMCA 日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ	0 1 0 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標] <p>日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。</p> <p>本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。</p>	[講義計画] <p>前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。</p>			
[成績評価の方法] 講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（13回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。	[参考文献] 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑥、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社）			
[教科書] 特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
[講義概要・学習目標] <p>本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。</p>	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します(二回)。 ・留学生とチームを組んで、共同プロジェクトを行います。 ・実際の日本語授業を見学したり、夏期休暇中には学外での教育実習(希望者)を行います。 			
[成績評価の方法] <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめる外、適宜出される課題もそこに書き込み、一か月に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠を含む、授業への貢献度の材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。) 	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> 『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研) 『概説日本語教育』(遠藤織枝編、三修社) 『日本語教授法』(石田敏子、大修館書店) 『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス) 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク) 『日本語教育への道』(土岐哲他、凡人社) 			
[教科書] <p>教員の用意する配布物を使います。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅱ		通 期	4 単位	岡 村 清 人
[講義概要・学習目標] <p>日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。第二次世界大戦後50年、日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日のセラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。</p> <p>次に、発展に伴って、生活が豊かになり、リスクを負う状況にもなる。例えば環境破壊などである。従って経済発展、資源・エネルギーの確保、地球環境保全のトリレンマの克服が重要な課題である。これらの課題についても言及する。</p>	[講義計画] <p><前期> 工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料の具体的な説明を行い、それらの明治、大正、昭和、平成における発展プロセス、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。</p> <p><後期> 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専制的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴うリスクについても説明する。</p>			
[成績評価の方法] <p>レポート、出席など総合的に考慮して評価する。</p>	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> 大石 嘉一郎(編)『日本産業革命の研究 上・下』(東京大学出版会) 堂丸 昌男・山本 良一(編)久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』(東京大学出版会) H.W.ルイス(著) 宮永 一郎(訳)『科学技術のリスク』(昭和堂) 			
[教科書] <p>講義資料を適宜配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	01	通 期	2 単位	高 田 里 恵 子
ドイツ語 I b	01	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 <p>このクラスは、Ia・Ib の両方のクラスを高田が担当するので、週に二度、皆さんと会うことになります。</p> <p>この一年間の目標は、一通りドイツ語の文法をマスターしてしまうことです。語学の習得のためには、継続と努力とが必要で、楽しい「会話」をするためには、まずは単語や文法を暗記しなくてはなりません。一に暗記、二に暗記、三四がなくて五に暗記、というつもりで頑張ってください。</p> <p>また、大きな声で外国語を話してみることも大事です。外国語を話すことというのは一種の「演技」でもあります。この授業を、恥ずかしがらずに堂々と「演技」をする訓練の場になりたいと思います。</p>	【講義計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語とはどんな言語か。 2. 冠詞と動詞の変化 3. 前置詞と接続詞 4. 動詞の時制 5. 助動詞 6. 再帰動詞・分離動詞・非人称動詞 7. 受動態と関係代名詞 8. 接続法 			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期に行う試験および平常点。 ただし、平常点については、単に出席しているということではなく、授業への積極的な参加を評価します。出席していても、居眠りや私語はかえって平常点のマイナスをもたらすことになるでしょう。</p>	【参考文献】 <p>授業中に指示します。</p>			
【教科書】 <p>近藤弘他著 Dialog—ドイツ語へのキックオフ (郁文堂)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	02	通 期	2 単位	竹 田 和 子
【講義概要・学習目標】 <p>このクラスでは文法を学びます。教科書は、ごく普通のオーソドックスな文法入門書ですが、一つ一つの文の規則が分かりやすく説明されていて、理解しやすい教科書です。ドイツ語を話し、理解するうえで最も重要で基本的な決まりを一年間で習得することを目標にします。</p> <p>授業では、口頭練習をよく行ないますので、練習へは積極的に参加してください。また予習、復習は不可欠です。外国語の習得には、反復練習と暗記という地道な努力が必要です。しかしその成果は決して小さいものではありません。授業を通じて新しい言葉、ドイツ語の基礎を体得してください。</p>	【講義計画】 <p><前期> 動詞の基本変化、名詞と冠詞、冠詞類、名詞の複数形、不規則動詞、命令形、人称代名詞、前置詞、形容詞、数詞、時の表現、従属接続詞分離・非分離動詞、非人称</p> <p><後期> 動詞の三基本形、過去と未来、話法の助動詞、再帰代名詞、現在完了比較、zu不定詞、受動、関係代名詞、接続法</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。</p>	【参考文献】			
【教科書】 <p>著者 : 浦野春樹 書名 : ドイツ文法の要 (新訂版) 発行所 : 郁文堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	02	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
【講義概要・学習目標】 ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずアップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。	【講義計画】 1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a (初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 橋本、ノイベルガー、『なぜドイツ語?—もっとドイツ語!』 三修社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	03	通 期	2 単位	田 中 秀 穂
	05	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得して行く。 ドイツ語には、主語によって動詞の語尾が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での統語的役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな規則があり、覚えるべきことも少なくはない。しかし、積極的に授業に取り組み、反復練習を心がけ、文法を単なる知識として終わらせず、確実に身につけてもらいたい。	【講義計画】 0 アルファベット、発音 1 動詞の現在人称変化 2 冠詞と名詞の格変化 3 命令形 4 定冠詞類と不定冠詞類 5 複数形 6 前置詞 7 動詞の3基本型、過去形 8 完了時称 9 分離動詞と非分離動詞 10 語法の助動詞 11 形容詞の格変化 12 再帰動詞 13 比較 14 関係代名詞 15 受動 16 z u不定句 17 接続法			
【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a(初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。	【参考文献】			
【教科書】 著者：高木 実 書名：三訂・高木・初級ドイツ文法 発行所：同学社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	03	通 期	2 単位	竹 田 和 子
【講義概要・学習目標】 <p>この授業では、読む、聞く、話す、書くという言葉の四つの能力のうち、特に聞く、話すという能力に重点を置き、それらを通じて読む、書くという能力も身につけることを目標にします。教科書は、ドイツ留学中の由美と彼女を取り巻く人々の会話をもとにごく日常的な場面での基本的な会話表現を練習しながら、ドイツ語の基礎能力が身に付けられるように作られています。</p> <p>したがって授業への積極的参加と、予習、復習は不可欠です。外国語の習得には、反復練習と暗記という地道な努力が必要です。しかしその成果は決して小さくはありません。授業を通じて新しい言葉、ドイツ語の基礎を体得してください。</p>	【講義計画】 <p><前期> 動詞の規則変化(1)、(2)、冠詞と名詞・格変化、人称代名詞、複数形、動詞の不規則変化、前置詞、</p> <p><後期> 分離動詞、話法の助動詞、接続詞、命令文、過去の表現、比較、zu不定詞句、関係代名詞、再帰動詞、受動、接続法</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。</p>	【参考文献】			
【教科書】 <p>著者 : 山本淳 書名 : じゃあ、またあした！ 発行所 : 同学社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I a	04	通 期	2 単位	山 崎 充 彦
【講義概要・学習目標】 <p>外国語として英語を学び、おそらくは苦労してきたみなさんにとって、新しい外国語を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。</p> <p>一つは、新しい外国語を通して、(つまりここではドイツ語を通して)今までとは違う世界をみて欲しいと思います。また、英語と同じ語族に属するドイツ語を学ぶことで、英語の構造を理解することがより深くなるでしょう。</p> <p>それから、何よりも、英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養っていただきたいと思います。</p> <p>日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法を身につけて下さい。</p> <p>この講義では、ドイツ語の基礎的な文法を時間をかけて説明して行きます。ハードな水準は求めませんが、授業中に説明した文法事柄の復習に心がけて下さい。</p>	【講義計画】 <p>授業内容や進度は、原則としてテキスト通り</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の試験によります。成績評価はI aとI bの担当者が相談し、総合的に判断して決められます。 詳細はプリント「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」を参照して下さい。</p>	【参考文献】 <p>独和辞典必携</p>			
【教科書】 <p>新妻・兼子・渡部、『ステップ バイ ステップ 15』、東洋出版、</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	04	通 期	2 単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 <p>はじめて学ぶドイツ語のもっとも大切な規則を、しっかりと身につけてもらいます。そのために復習をかねて（たとえば連休明けや夏休み明けなどに）、小テストを行うこともあります。教科書には、文法にかんする必要な事項が「ミニマム」に記載されているものを選ぶ予定です。ドイツの風土・文化の紹介や簡単な会話の練習は、ゆとりのある限り試みるつもりですが、この授業の重点は、あくまで反復や記憶にあります。</p> <p>ただし、私の授業に予習はいりません。わからないことは単語の意味から文の構造まで、何でもかまいませんからきいてください。ドイツ語 I の授業で習うのは、ドイツ語の基本中の基本ですから、できるだけ授業中に覚えてしまいましょう。それができないときは、復習をこころがけてください。</p>	【講義計画】 <p>テキストに沿って進めていきます。</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、a を担当する教師と b を担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、I a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。</p>	【参考文献】 <p>独和辞典を毎回持参してください。</p>			
【教科書】 <p>追って指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ドイツ語 I b	05	通 期	2 単位	村 田 佳 隆
【講義概要・学習目標】 <p>ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずアップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。</p> <p>毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。</p>	【講義計画】 <p>1. 発音 2. 動詞の現在人称変化 3. 冠詞 4. 前置詞 5. 形容詞 6. 分離動詞 7. 助動詞 8. 再帰動詞 9. 過去・完了 10. zu不定詞 11. 関係代名詞 12. 受動</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、a を担当する教師と b を担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細は I a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。</p>	【参考文献】			
【教科書】 <p>在関、Jessel、『ヴェーラとヴェルナー』 朝日出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	01	通 期	2 単位	赤 瀬 雅 子
	02	通 期	2 単位	
<p>[講義概要・学習目標] フランス語は、あまたの外国語のなかで、発音がもっともむずかしい言語のひとつであり、また動詞の活用も多様である。しかし現代思想・現代文学の先端の書はフランス語で書かれたものが目立ち、また国際会議の公用語も英語およびフランス語である場合が多い。現代文化を考える上で必須の言語である。基本的な発音の法則、基本的な動詞の活用等が無理なく段階を経て理解されることを目指しつつ、フランス語の文化的背景をも考察する。</p> <p>読み、書き、話し、聴くことのすべてに一気に上達しようとする意欲はよいが、ただ焦るばかりで、すぐに上達しないと勉学を放棄してしまうこともよくある。それを防ぎ、着実に実力をつけるような勉学方法に中心をおいて学習を進める。</p>	<p>[講義計画] 先ず、発音の基礎をじっくりと学ぶ。これを身につけるにはかなりの時間が必要である。ついでフランス語ではことに重要な動詞の活用を、直説法を中心として学ぶ。命令法・分子法も習得し、易しい文章の読み書きの基本を体得する。ついで条件法・接続法を学ぶ。前置詞も理解できるようになっているので時には学者や作家の書いた名文にも接する。</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期末試験と学年末試験の成績が、成績評価の上で重要な部分を占めることはいうまでもないが、出席率をよくすることは実力をつける上からも大切である。口頭試験・小テスト等の成績をも加えた総合評価がなされる。</p>	<p>[参考文献] 田島宏編『フランス語 話す』（白水社）</p>			
<p>[教科書] 片山正樹・曾我祐典著『文法からのフランス語』（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	01	通 期	2 単位	一ノ瀬 真 美
	02	通 期	2 単位	
<p>[講義概要・学習目標] はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、初級文法読本を用いて、簡単な文を読みながら一年間でフランス語の基礎をしっかりと身につけることを目標としています。授業ではテキストを読んで理解するだけでなく、テープを活用して耳と口を使ってもフランス語になじみ、また、学んだ文法事項についてはかならず応用練習をしますので、実習のつもり極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書はかならず持参すること。</p>	<p>[講義計画] <前期> 最初の1、2回はウォーミング・アップとしてフランス語の発音について。その後は次の文法事項を教科書に出てくる順で習得していきます。名詞の性と数。不定冠詞、部分冠詞、定冠詞。指示形容詞、所有形容詞。être、avoir、-er動詞、-ir動詞、allerの直説法現在形の活用。形容詞。比較級・最上級。 <後期> enとy。補語人称代名詞。代名動詞。命令法。中性代名詞le。直説法複合過去形、半過去形、単純未来形。関係代名詞。</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期試験と学年末試験で評価します。（学年末試験の方を重視。）</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 林田遼右（著） 「フランス語を2ページで（四訂版）」（朝日出版社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	03	通 期	2 単位	オリヴィエ ビルマン Olivier Birman
[講義概要・学習目標] フランス語を「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」ための基本的な文法を身につけることを目的としています。 使用する教材（『Dialogues』）はコミュニケーション学習を重視するテキストです。各課の手順は次の通りです。いくつかの短い会話を聞くことから始まります。細部を聞き取ることが忘れて、まず話の大まかな内容を考えます。それから情報のポイントを、ゲーム感覚でチェックします。表現手段を学んで、次は、あなたの番です。同じようなシチュエーションを設定し、実際に使ってみましょう。 コミュニケーションの中でこそ文法学習が活きてくるという考えです。 なお教科書と連動して、フランス語 I a クラス用の聞きとり、作文、読書の練習のプリントを作ります。	[講義計画] <前期>自分について述べる／挨拶する 人を紹介する 買い物をする／評価する どこかへ行く／注文する 物や人を描写する／評価する等々 <後期>買い物をする／提案する／拒否する 自分について述べる／人を紹介する／評価する 提案する／承諾する／拒否する／執拗に求める／評価する 電話する／情報を求める等々 過去の物語、出来事の展開を話す 出来事の背景について説明する等々			
[成績評価の方法] 成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験	[参考文献] 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990 『フランス語へのかけ橋』、著者：春木仁孝、白水社、1999			
[教科書] 『ディアローグ』、大阪日仏センター、著者：オリヴィエ・ビルマン、木内良行 他、第三書房、1997				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	03 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	セシル モレル Cecile Morel
[講義概要・学習目標] フランス語会話	[講義計画] 聞き取りの練習を中心にする。 習った表現を実際に使ってみることによって、 表現力を高めていく。			
[成績評価の方法] 出席、宿題、学期末試験	[参考文献]			
[教科書] Dialogues “ディアローグ” 大阪日仏センター 第三書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	04	通 期	2 単位	本 多 雄一郎
フランス語 I b	04	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 本講義では、フランス語の「話す」「聞く」という面に重点をおき、ダイアログ教材を並用しながら、口頭による会話表現を段階的に覚えて練習していく予定です。 ヨーロッパでは今年から共通通貨「ユーロ」が採用されますが、そもそも英語、スペイン語と合わせてヨーロッパの共通語としてのフランス語の国際的な重要性は今後も変化することは無いでしょう。この言語が持つ国際語としての有用性が授業の中で感じてもらえれば幸いです。 みみさんは同じスタート地点からの出発に在ると思っておりますので、未知の世界をのぞく新しい窓としてフランス語に取り組んで下さい。	【講義計画】 <前期> 4月中は主に発音練習を行ない、それと平行して自己紹介などの会話表現を覚えてフランス語の感覚を養い、ダイアログで聞きとりの訓練も行う。 5月以降：フランス語の動詞活用を中心に文法の各項目の説明、そしてひきつづき会話表現を覚えていく。 <後期> 日常生活の表現や動詞の過去・未来形の学習によって様々な会話表現・構文を学習する。			
【成績評価の方法】 前、後期試験と平常点で総合的に評価する。	【参考文献】			
【教科書】 岩間直文『会話で始めるフランス語』 朝日出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I a	05	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
	06	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 ※ 正しいテキストを言売み、文法・動詞活用・発音などをチェックした上で、簡単な表現が出来るように口頭や筆記の練習をする。	【講義計画】 前期：指定のテキストの第一章から第十章までをおさめます。 後期：指定のテキストの第十一章から第二十章までをおさめます。			
【成績評価の方法】 出席、平常点とレポートで評価します。 年間4回以上休むと合格は必ずおしくたります。 毎回テストとレポートを行います。	【参考文献】			
【教科書】 ロー・ヤマサキ、「Arrangements」 (自家出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
フランス語 I b	06	通 期	2 単位	ロー・ヤマサキ・アニー
【講義概要・学習目標】 発音と文法の基礎を身につけながら、コミュニケーションに役がる基本的な表現を使った文章を覚えたり作ったりします。	【講義計画】 前期：指定のテキストの第一章から第十章まで学びます。 後期：指定のテキストの第十一章から第二十章まで学びます。			
【成績評価の方法】 出席、平常点とレポートで評価します。年間4回以上休むと合格はできません。毎週小テストと小レポートを行います。	【参考文献】			
【教科書】 P=、ロー・ヤマサキ：「Parole et syntaxe」(自家出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	01	通 期	2 単位	松 平 マリア
スペイン語 I b	02	通 期	2 単位	
	03	通 期	2 単位	
	05	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 スペイン語の紹介 基礎的な読解および書き方の教え	【講義計画】 アルファベット・冠詞・性〔男性名詞・女性名詞・中性名詞〕形容詞・人称代名詞・反対語・同意語・疑問文・否定文・動詞・直接法現在文・数			
【成績評価の方法】 筆記試験	【参考文献】 ビデオ			
【教科書】 ESPANOL PARA COMUNICARSE [第三書房]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I b	01 02 03 04	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	ゴンザレス ダ リ オ GonzalesDario
【講義概要・学習目標】 【学習目標】 スペイン語に慣れ親しみ、基礎的な発音の習得や・初歩的な会話表現を身につける。 【講義概要】 ラテン語から派生したロマンス諸国の一つのスペイン語は、世界の数多い国々で使用されている。日本語と母音が類似していることも有り、音声面からは大変親しみやすい言語であるが、黙読でなく恥ずかしがらずに声をしっかり出して読む・話すことを心掛けなければ、身につくことが半減してしまうでしょう。 本講義では、まず正しい発音で文章を読む事から始まり、辞書を活用することにより語彙力、読解力を養う。又、実践的に使える会話表現を覚える。 語学習熟には、口頭反復練習が大切であるが、会話表現を豊かにする為には西和和西 1 冊になった小辞典の 携帯を必要とする。	【講義計画】 <前期> 1. スペイン語の発音と読み方 2. 挨拶をする、自己紹介、時間や曜日の尋ね方等の初歩的な会話表現 3. 辞書を活用しての簡単な文章の読解 <後期> 1. 動詞や疑問詞を使つての作文練習 2. 基本文型を応用した会話練習 3. ヒヤリングの力を身につける。			
【成績評価の方法】 定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。	【参考文献】 東谷頼人 (著) 『すぐに役立つ はじめてのスペイン語』 (日本放送出版協会)			
【教科書】 最初の講義の時に指示をする。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スペイン語 I a	04 05	通 期 通 期	2 単位 2 単位	フェリペ・カルバホ
【講義概要・学習目標】 この授業では、基礎会話を中心にして、スペイン語の基本的な文法を修得することに重点を置く。従って、動詞の直接法の用法や命令法などは、特に重視しておく必要がある。教科書のスペイン語を録音したテープがあるので参考として併用されたいと思います。	【講義計画】 易しい会話のために必要な発音と文法を学ぶ。教科書の第一課から第十九課迄履修予定である。主に規則動詞と不規則動詞の直接法である。後半では特に動詞の過去の未来・比較級と最上級等を重点的に行う。毎回、スペイン語作文の宿題あり。			
【成績評価の方法】 テストと授業中の態度・応答・宿題・出席で決める。	【参考文献】 授業で紹介			
【教科書】 フェリペ・カルバホ 『HABLAMOS ESPAÑOL. I』 大盛堂書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I b	0 1	通 期	2 単 位	武 田 好
	0 2	通 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので授業概要や学習目標、成績評価の基準はすべて同一である。担当者が誰か、ということによって内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決定する。</p>	<p>【前期】自分のことを話す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 <p>【後期】相手にたずねる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
[教科書]				
<p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a イタリア語 I b	0 5	通 期	2 単 位	和 栗 珠 里
	0 1	通 期	2 単 位	
	0 4	通 期	2 単 位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので授業概要や学習目標、成績評価の基準はすべて同一である。担当者が誰か、ということによって内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決定する。</p>	<p>【前期】自分のことを話す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 <p>【後期】相手にたずねる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
[教科書]				
<p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I a	02	通 期	2 単位	藤澤道郎
	03	通 期	2 単位	
	04	通 期	2 単位	
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので授業概要や学習目標、成績評価の基準はすべて同一である。担当者が誰か、ということで内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決定する。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>【前期】自分のことを話す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 <p>【後期】相手にたずねる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イタリア語 I b	03	通 期	2 単位	啜 絵里
	05	通 期	2 単位	
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目を口をフルに使ってほしい。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できるのであって、その国の文化を理解せずに言葉は学べない。授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。一年間で基本語彙と初級文法を習得することを目標とするが、文法力が話す力、聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。授業の方針は、本学のイタリア語授業担当者全員の協議によって統一されており、同一のテキストを用い、リレー式に進行するので授業概要や学習目標、成績評価の基準はすべて同一である。担当者が誰か、ということで内容が変わることはない。成績判定は担当者の合議で決定する。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>【前期】自分のことを話す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア語のイントネーション、性数の概念 2. 規則動詞、名詞、形容詞 3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習 <p>【後期】相手にたずねる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不規則動詞、補助動詞 2. 目的語人称代名詞 3. 近過去の働き 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I a		通 期	2 単位	国 松 夏 紀
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？ おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファベット」であり、33文字あります。</p> <p>英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。</p> <p>そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>教科書は全部で18課あります。単純に計算すると、1回の講義につき1課、前期9課、後期9課で1冊修了することになります。しかし、なかなか計算通りいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、重要なところはじっくりと、とばせるところはとばしていきます。</p> <p>一つだけ、予め注意しておきたいのは、教科書には書き込みをしないこと。B5判の余白の多い教科書で、つい「読みカナ」をふったり、練習問題の解答を書き込んだりしたくなるのですが、それはノートにすること。教科書をきれいなままにしておき、常に「練習」できるようにしておくことも、意外と語学上達早道なのです。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、前期末と学年末の試験で総合的に評価します。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。</p> <p>その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>中島由美・黒田龍之助・柳町裕子著 『ロシア語へのパスポート』 白水社刊</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ロシア語 I b		通 期	2 単位	杉 野 ゆ り
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>ロシアは隣国でありながら、日本にとってはまだまだ豊かな可能性を秘めた未知の大国です。21世紀を背負って立つみなさんがロシア語を勉強し続けられ、両国間の交流に新分野を開拓し、また、その一翼を担うチャンスが、将来訪れるでしょう。未知の分野に挑むチャレンジ精神のある学生の参加を期待します。</p> <p>ロシア語はやりがいと味わいのある言語です。みなさんが知っているラテン文字とは違ったロシア文字の形を楽しみながら、発音を覚え、次第にロシア語文法奥深く入っていきましょう。積極的に授業に参加して、五感をフルに使いながら、根気強く授業についてきてください。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>主な学習内容は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文字とその読み方 2 名詞と形容詞 3 名詞の格変化 4 所有の表現 5 現在、過去、未来 6 不完了体と完了体 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>平常点（出席回数、小テストなど）と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>露和辞典必携</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>諫早勇一著「セメスターのロシア語」（白水社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	01	通 期	2 単位	芦 田 茂 幸
中国語 I b	01	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 この地球上では5人に一人が中国語を話している。隣国であるということも含めると、我々日本人にとって中国語を学ぶ意義はとても大きいし、学習希望者も年々増加傾向にある。しかし困ったことは同じ漢字を使っているから、英語と比べてかなり学び易いだろうという錯覚から受講を希望する学生もかなりいるという現実である。中国語学習の過程での目標の第一は、日本人が漢字の読みを一つ一つ覚えたのと同じように、中国語独特のイントネーションとともに、漢字一字一字の固有の発音を会得することである。日本語の漢字の読みを覚えるのに少なくとも小学6年間を要したことを思い出してもらいたい。確かに補助的に使用するローマ字はあるが、それはあくまで補助であって、主ではない。「英語はだめだったが、中国語なら…」という考えは通用しないのである。 尚、テキストはa b共通で、通年で使用する。	【講義計画】 授業の都合上、前期と後期に分ける。 〈前期〉主として声調・発音に重点を置き、簡単な日常会話から始めるが、中国人の日常生活や風習にも言及し、中国語を親しみ易いものにしたい。 テキスト1課～10課 〈後期〉日常会話から中国各地探訪をテーマとした平易な文章語に進み、漢字を直に読めるようにし、中級への基礎固めを行いたい。 テキスト11課～20課			
【成績評価の方法】 前期・後期とも2課毎に小テストをそれぞれ5回行い、その平均点を平常成績（暗誦、書き取り、及び出席状況）を加味して総合評価を行う。	【参考文献】 香坂順一編著「簡約現代中国語辞典」B6変型判【光生館】3,500円 蘇 文山 監修「アクセス中日辞典」四六変型判【三修社】3,200円			
【教科書】 相原 茂 / 戸沼 市子 共著「入門北京カタログ」(朝日出版社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a	02	通 期	2 単位	オ ウ 汪 暁 京
中国語 I b	03	通 期	2 単位	
	02	通 期	2 単位	
	03	通 期	2 単位	
【講義概要・学習目標】 初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。拼音（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。 また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。	【講義計画】 〈前期〉 導入 発音段階 ①拼音（ローマ字による発音表記） ② 四声（中国語のイントネーション） ③ 総合練習 本文の勉強 第5課～第10課 2コマ一課のペースで行う （文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習） 〈後期〉 本文 第11課～第20課 前期と同じ			
【成績評価の方法】 定期試験、平常点、出席などによる総合評価。	【参考文献】 「デイリーコンサイズ中日辞典」 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘【共編】 （三省堂 1998）			
【教科書】 相原 茂（編著）「中国語へのパスポート」 （CD付き 1998年 新版）（朝日出版社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a 中国語 I b	0 4 0 5 0 4 0 5	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	カフカ 何洛嘉
[講義概要・学習目標] 近年国際化が進み中国が注目される中で中国語を身につけたいと意欲に燃えている学生が増えていると感じている。本講義は初心者を対象に一年間を通じて「聞く、話す、読む、書く」の四つの基本技能をともに発展させ初級レベルに達成させることを目標とする。CDを繰り返し聞き、発音を完全にマスターすることが大切である。また学生諸君の積極的な参加を望み、楽しく無理なく進めたいと思う。	[講義計画] まずはしっかり発音できるように、最初の8回をあてる計画である。前期は第11課まで進める予定で後期は全教科書を終える。映画、音楽などを通じて中国の文化、風俗習慣の紹介も行いたい。			
[成績評価の方法] 期末試験の結果に出席状況と平常点（受講の積極性、小テスト）を加味して総合評価する。	[参考文献] 三瀧正道 『中国語ドリルブック』（朝日出版社） 姜晚成 / 王 郁良 『精選日中中日辞典』（東方書店）			
[教科書] 黒坂満輝／楊曉安 『ビッグバン中国語』（同学社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国語 I a 中国語 I b	0 6 0 7 0 6 0 7	通 期 通 期 通 期 通 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	サ 左 コウ 虹
[講義概要・学習目標] 中国語を修得するためには、正しい発音をすることと文型や文法などを把握することが最も重要だと思ふ。一年間の中国の学習で、発音の基礎と文法を有機的に結びつけ、簡単に、役に立つ日常会話を少しずつ身につけることを目標とする。 また、中国の学習とともに、中国の文化、文化、風俗習慣なども紹介する。	[講義計画] 前期：『中国はじめの一步』 発音～第13課の予定。 ・ピンインの読み方と書き方に重点を置く。 ・基本的な文法や簡単な会話を学習する。 後期：『中国語さらなる一步』 ・第1課～第12課の予定。 ・前期で修得した基礎を活用し、文法や文型に対する理解を深めながら、簡単な会話と作文作りの能力を養う。			
[成績評価の方法] 出席を含む平常点と小テスト、前期、後期の定期試験などによって総合評価する。	[参考文献] ・竹島 金吾 児野 道子（著）『中国語 123』（白水社） ・王 延平（著）『実用中国語』（金星堂）			
[教科書] 前期：竹島 金吾 監修・伊 景春・竹島 毅（共著） 『中国語はじめの一步』（白水社） 後期：竹島 金吾 監修・伊 景春・竹島 毅（共著） 『中国語さらなる一步』（白水社）				